

平成 28 年度  
教育に関する事務の管理及び  
執行の状況の点検及び評価報告書

平成 27 年度事業分

八戸市教育委員会



## — 目 次 —

<b>I 学識経験者からの総評</b>	2
<b>II 点検及び評価</b>	
1 点検及び評価概要	5
2 目標ごとの点検及び評価	6
3 事業担当課による点検及び評価	
<b>【重点取組】</b>	
目標ごとの点検及び評価	10
<i>方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します</i>	
目標 1 就学前教育の充実	12
目標 2 義務教育の充実	14
目標 3 高等学校教育・高等教育の充実	26
<i>方向性 II 八戸の個性豊かな文化と恵まれた自然に対する誇りと愛着をはぐくみます</i>	
目標 4 文化財の保存と活用	28
<i>方向性 III 大災害を乗り越えるための知識と心構えを養います</i>	
目標 5 被災者の支援と防災教育・防災体制の充実	34
<i>方向性 IV 地域・社会ぐるみの子育てを支援します</i>	
目標 6 参加と連携の推進	37
目標 7 社会教育・家庭教育の充実	38
目標 8 青少年の健全育成	
<i>方向性 V あらゆる世代に多様な学習機会を提供します</i>	
目標 9 生涯学習の充実	40
<b>【重点取組以外の取組】</b>	46
<b>III 参考資料</b>	
1 教育委員会の活動状況	79

## I 学識経験者からの総評

### 天内 享二

八戸市教育振興基本計画の評価は、今年で3回目になった。課題解決のために、事業の推進を通じて真摯に向き合ってきたこと、そして、今年度もほぼ計画どおりの達成がなされたことが確認できた。

さて、これは年度ごとの評価であり、何年もかかって積み上げられた到達状況の評価ではない。作成者は評価基準に揺れがないようにし、また、閲覧者も単年度の状況であることを忘れないようにしたい。

昨年度はじまった事業「ブックスタート」「マイブック推進」が達成度を上げ、今年度はじまった事業「公開講座開催促進」等が順調に滑り出した。事業の展開と結果から、どちらも確かに基本理念である「夢をはぐくみ」「ふれあいをつくる」ことに繋がると強く思わせる。関連施設やボランティアなど市民の活動とも連携し、蒔いた種の広がりを確かめながら進めたいものである。

評価理由にアンケートの結果を生かしている箇所がたくさんある。アンケートは受講者・参加者の願いや感想をきちんと捉える資料の一つであり、市民の意識啓発の意味でも大切である。目的にそって、適切に反映させたいので、現在行っているものにこだわらず、内容や方法、対象を十分に検討して活用してもらいたい。

改善に向けて積極的に取り組んでいる様子が見取れる。例えば、やり方を変えて効率を上げることができたとか、企画の工夫が世代層を広げることにつながった等々である。今まで実施に踏みきれなかったことに挑戦しているのではないかと思う。不利益につながりかねない課題もあると思うが、細心果敢に取り組むことを期待する。

### 前田 稔

「八戸市教育振興基本計画」における平成27年度分の事業は、新たに2事業が加わり80事業となった。とりわけ「就学前教育の充実」ぶりが際立っている。2年目となった「ブックスタート事業」が他の2事業とともに「◎」の評価となり、就学前教育の充実は本市の初等教育を牽引するのに余りある成果であり、今後ますますの発展が期待される。

また、特筆すべき点として、本市独自の事業であり、八戸版コミュニティ・スクールともいえる地域密着型教育推進事業が市内全小中学校が実施されるようになって、3年目で評価が「◎」になったことである。地域、学校、コーディネーター、そして行政の努力の賜であるが、地域学校連携協議会のさらなる充実が、グッジョブウィーク事業やジョイントスクール事業との連携を強化させるとともに、八戸市ならではの地域を巻き込んだ教育の実践の礎となり、今後ますます発展していくことが期待される。

点検の感想として、評価理由では人数の記入など、より具体的になっており、今後の方向性も意気込みを感じ取ることができ、理解しやすいものとなっている。

最後に、平成27年度事業分もほぼすべての事業が計画目標に対して概ね達成できたという評価結果となっており、本市における就学前指導から義務教育、社会教育等全般にわたって健全な教育が実践されていることを誇りに思う。

## 平間 恵美

八戸市は、平成25年から「八戸市教育振興基本計画」に基づき事業を行ってきた訳ですが、平成27年度も80事業という多くの事業において、高い達成率が得られたことは、大変喜ばしく、大きく評価すべきところであります。今後も全ての事業において、誰もがわかりやすい、納得のいく成果や効果を図る為、またその結果が現場の士気を上げる事につながるよう、子ども達、指導者、地域住民の声に、常にアンテナを張ることを切望します。また、青森県では高校生、中学生の自殺者が出ている中、市民の関心も多く、八戸においても今後率先したいじめ問題に対する取組が行われることを期待します。

八戸市は先人の方々が、社会教育の理念の下、学びの力を地域に還元し、地域で子どもを守るという意識を確立、他都市ではあまり例のない、中学校区ごとに設置されたそれぞれの地区公民館が、その地域コミュニティの中で、教育と福祉、学校と地域の橋渡しをしながら、子ども達の健全な育成に貢献していると思います。それが、報告書の中の学校教育はもとより、地域密着型教育推進事業、防災教育等の成果からも見て取れました。

これは、基本計画の冒頭に掲げている、子どもが困難を克服し、豊かな人生を歩んでいくための教育充実と、あらゆる世代が活力を発揮することができる社会に、確実に進んでいることであると確信しました。

平成29年1月より中核市としてスタートを切ることで、新事業が増える可能性を視野に置き、今後は一層の各課の連携が重要と考えます。事業の共有を図りながら、八戸の教育が実践されることを心よりお願い申し上げます。



## II 点検及び評価

### 1 点検及び評価概要

#### (1) 根拠

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律(平成19年法律第97号)により、平成20年4月1日から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出することが義務づけられた。また、同法の規定により、点検及び評価結果は公表する。

#### (2) 対象

平成25年1月に策定した八戸市教育振興基本計画(計画期間：平成25年度～平成29年度)に掲載した計画目標及び取組のうち平成27年度に実施予定であったもの、並びに平成26年度以降新たに実施している重点取組について、その状況を点検・評価の対象とした。

基本計画掲載事業	79 事業	… (a)
市長事務部局所管事業	4 事業	… (b)
平成 26 年度より実施している重点事業	3 事業	… (c)
平成 27 年度より実施している重点事業	2 事業	… (d)
点検・評価対象事業数	80 事業	…(a)-(b)+(c)+(d)

#### (3) 方法

次の手順で点検及び評価を行った。

(ただし、点検及び評価の手順と実際の掲載順は逆になっている)

##### <内部評価>

##### ①事業担当課による点検及び評価

事業担当課が実施状況等をまとめ、各課が設定した評価基準により、「◎、○、△」の3段階で評価した。評価になじまない事業は「－(達成状況評価除外)」で表した。

◎ … 計画目標以上に達成(対応)できた

○ … 概ね計画目標どおり達成(対応)できた

△ … 計画目標には及ばなかった

－ … 達成状況評価除外(事業の完了や見直し、廃止により実施しなかった事業)

##### ②教育委員会による点検及び評価

各事業を目標ごとに点検及び評価をした。計画目標に取り込まれた事業ごとの点検及び評価結果に基づき、次の4段階で評価した。

S … 全て「○(概ね計画どおり達成)」以上で、かつ「◎(計画以上に達成)」が65%以上

A … 「○(概ね計画どおり達成)」及び「◎(計画以上に達成)」の構成割合が90%以上

B … 「○(概ね計画どおり達成)」及び「◎(計画以上に達成)」の構成割合が70%以上90%未満

C … 「○(概ね計画どおり達成)」及び「◎(計画以上に達成)」の構成割合が70%未満

##### <学識経験者の知見の活用>

教育委員会自らが行った点検及び評価について、教育に関し学識経験を有する者から意見を聴取し報告書へ掲載する。

## 2 目標ごとの点検及び評価

### 方向性Ⅰ 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します

子どもたちが変化する社会・厳しい経済環境を生き抜き、豊かな人生を歩んでいくためには、確かな学力と、学力を活かすための豊かな心、学力や心を宿すための健やかな体の育成が大切です。就学前教育・義務教育・高等教育の各段階を通して、知・徳・体の調和のとれた子どもを育成します。

各目標ごとの施策の分類	取組 No.	取組名	評価
<b>目標1 就学前教育の充実</b>			<b>S</b>
①就学前教育内容の充実	重点 1	幼保小連携推進事業	◎
②就学前教育環境の整備・充実	2	私立幼稚園補助金	◎
	重点 3	ブックスタート事業 (※26)	◎
<b>目標2 義務教育の充実</b>			<b>A</b>
①教育内容・指導の充実	4	学校訪問(計画訪問・要請訪問)	○
	重点 5	地域密着型教育推進事業	◎
	6	さわやか八戸グッジョブウィーク事業	○
	7	学力実態調査	○
	重点 8	小・中学校ジョイントスクール推進事業	◎
	9	各種研修の実施	○
	10	いじめの問題に対する取組	○
	11	学校飼育動物ネットワーク支援事業	◎
	12	いのちを育む教育アドバイザー事業	◎
	重点 13	教育相談・適応指導教室	◎
②特別支援教育の充実	重点 14	特別支援教育アシスト事業	◎
	重点 15	特別支援教育体制整備事業	◎
③健康に関する指導の充実	16	「新体力テスト」の結果の活用	○
	17	栄養教諭・学校栄養職員の活用	◎
	重点 18	学校保健活動の実施	◎
④教育環境の整備・充実	19	学校図書館を利活用した教育の充実	○
	重点 20	学校施設の整備	◎
	21	新学校給食センター建設事業	○
	重点 22	小・中学校適正配置事業	○
	重点 23	マイブック推進事業 (※26)	◎
重点 24	西白山台小学校建設事業 (※26)	○	
⑤国際理解教育の推進	25	青少年派遣交流事業	◎
	重点 26	国際理解教育・英語教育推進事業	○
⑥情報教育の推進	重点 27	教育の情報化推進事業	○
	28	教職員の ICT 活用指導力の育成	○
	29	情報モラル指導の充実	○
<b>目標3 高等学校教育・高等教育の充実</b>			<b>S</b>
①高等学校教育・高等教育の充実	重点 30	八戸市奨学金制度	◎
	31	私立高等学校助成補助金	◎
	重点 32	公開講座開催促進事業 (※27)	○

※26…平成 26 年度新規事業

※27…平成 27 年度新規事業



## 方向性Ⅱ 八戸の個性豊かな文化と恵まれた自然に対する誇りと愛着をはぐくみます

郷土に対する誇りと愛着が、グローバル化する世界で活躍するための基盤となります。八戸の個性豊かな文化と恵まれた自然を後世に継承し、市民が親しむことができるよう整備することにより、郷土八戸への愛情をはぐくみます。

各目標ごとの施策の分類	取組 No.		取組名	評価
<b>目標4 文化財の保存と活用</b>				<b>A</b>
①史跡・名勝・天然記念物などの 保存・活用	重点	33	是川縄文の里整備事業	○
	重点	34	北海道・北東北を中心とした 縄文遺跡群の世界遺産登録の推進	○
		35	史跡等環境整備事業	◎
		36	史跡根城の広場の活用事業	○
		37	名勝種差海岸の保護管理事業	○
		38	天然記念物「蕪島ウミネコ繁殖地」保護事業	○
		39	浜小屋及び漁撈民俗資料の保存・広報事業	○
②埋蔵文化財の記録保存		40	八戸市内遺跡発掘調査事業	◎
③民俗文化財の保存・継承	重点	41	無形民俗文化財後継者養成事業	○
		42	「民俗芸能のタベ」開催事業	○
		43	郷土芸能ビデオライブラリー事業	○
	重点	44	八戸三社大祭のユネスコ無形文化遺産登録の推進 (※27)	○
④有形文化財の保存・管理		45	指定文化財管理事業	○
⑤歴史記録の保存・活用		46	先人周知事業	○
		47	史跡等標示事業	○
	重点	48	古文書の整理・解読の推進	○
	重点	49	八戸市史編さん事業	◎
		50	研究紀要の発行	◎
		51	収蔵資料の活用	◎

※27…平成27年度新規事業

## 方向性Ⅲ 大災害を乗り越えるための知識と心構えを養います

大災害は、突然に訪れます。東日本大震災で傷ついた子どもたちのケアを続けると同時に、災害に備えて防災の心構えを養います。また、子どもや市民が安心して使用できる教育施設の整備を進めます。

各目標ごとの施策の分類	取組 No.		取組名	評価
<b>目標5 被災者の支援と防災教育・防災体制の充実</b>				<b>A</b>
①児童生徒の就学支援と 教育相談の充実		52	市奨学金の返済猶予及び申請要件の緩和	○
	重点	53	教育相談による心のケア	○
②教育施設の避難所機能の充実	重点	54	地区公民館の耐震化	○
		55	小・中学校における避難所機能の整備	○
③防災教育の推進	重点	56	小・中学校における防災教育の推進	◎

## 方向性Ⅳ 地域・社会ぐるみの子育てを支援します

家庭における親と子の向き合い方の変化、学校における教員の多忙化と子どもとの向き合い方など、子どもを取り巻く環境は変化しています。学校・家庭・地域が一体となり、それぞれの力を活かした地域の子育てを支援します。

各目標ごとの施策の分類	取組 No.	取組名	評価
<b>目標6 参加と連携の推進</b>			<b>A</b>
①学校・家庭・地域の連携の推進	重点	57 地域密着型教育推進事業(再掲)	◎
		58 さわやか八戸グッジョブウィーク事業(再掲)	○
②教育資源の多様な活用	59	教育支援ボランティア推進事業	○
<b>目標7 社会教育・家庭教育の充実</b>			<b>A</b>
①社会教育施設等の整備・充実		60 公民館の施設整備	—
	重点	61 地区公民館を核とした地域コミュニティ活動の促進	○
		62 図書館施設の整備	○
②家庭・地域の教育力の充実	重点	63 家庭の教育力充実事業	○
<b>目標8 青少年の健全育成</b>			<b>A</b>
①青少年の健全育成活動の推進		64 少年相談センター活動	○
②青少年の交流の推進		65 南部藩ゆかりの都市との交流事業	◎
		66 青少年派遣交流事業(再掲)	◎
③青少年の地域活動の推進		67 青少年の地域活動の推進事業	○

## 方向性Ⅴ あらゆる世代に多様な学習機会を提供します

少子高齢化の進行により、社会の活力低下が心配されています。増加する高齢者をはじめとした、あらゆる世代が生きがいを見つけ、かがやくことができるよう、さまざまな講座の開催や、社会教育施設を活かした多様な学習機会を提供します。

各目標ごとの施策の分類	取組 No.	取組名	評価
<b>目標9 生涯学習の充実</b>			<b>A</b>
①多様な学習機会の提供	重点	68 八戸市民大学講座	○
		69 放送大学支援事業	○
		70 公民館講座の開催	○
		71 ICT 講習会の開催	○
②特色ある社会教育施設活動の充実	重点	72 学校出前講座の開催	◎
		73 児童科学館各種体験活動	◎
		74 「青少年のための科学の祭典」	○
	重点	75 図書館の利用促進	○
		76 「調べる学習コンクール」の開催	◎
		77 「市史講座」の開催	◎
	重点	78 是川縄文館各種展覧会・体験講座等開催事業	◎
	重点	79 博物館・南郷歴史民俗資料館 各種展覧会・体験講座等開催事業	◎
	80 博物館資料の収集・公開	○	

## 【 重 点 取 組 】

目標ごとの点検及び評価一覧

取組の内容・実施状況・評価結果

【重点取組】目標ごとの点検及び評価

方向性Ⅰ 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します

各目標ごとの施策の分類	No.	取組名	評価
<b>目標1 就学前教育の充実</b>			
①就学前教育内容の充実	1	幼保小連携推進事業	◎
②就学前教育環境の整備・充実	3	ブックスタート事業 (※26)	◎
<b>目標2 義務教育の充実</b>			
①教育内容・指導の充実	5	地域密着型教育推進事業	◎
	8	小・中学校ジョイントスクール推進事業	◎
	13	教育相談・適応指導教室	◎
②特別支援教育の充実	14	特別支援教育アシスト事業	◎
	15	特別支援教育体制整備事業	◎
③健康に関する指導の充実	18	学校保健活動の実施	◎
④教育環境の整備・充実	20	学校施設の整備	◎
	22	小・中学校適正配置事業	○
	23	マイブック推進事業 (※26)	◎
	24	西白山台小学校建設事業 (※26)	○
⑤国際理解教育の推進	26	国際理解教育・英語教育推進事業	○
⑥情報教育の推進	27	教育の情報化推進事業	○
<b>目標3 高等学校教育・高等教育の充実</b>			
①高等学校教育・高等教育の充実	30	八戸市奨学金制度	◎
	32	公開講座開催促進事業 (※27)	○

※26…平成26年度新規事業

※27…平成27年度新規事業

方向性Ⅱ 八戸の個性豊かな文化と恵まれた自然に対する誇りと愛着をはぐくみます

各目標ごとの施策の分類	No.	取組名	評価
<b>目標4 文化財の保存と活用</b>			
①史跡・名勝・天然記念物などの保存・活用	33	是川縄文の里整備事業	○
	34	北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群の世界遺産登録の推進	○
③民俗文化財の保存・継承	41	無形民俗文化財後継者養成事業	○
	44	八戸三社大祭のユネスコ無形文化遺産登録の推進(※27)	○
⑤歴史記録の保存・活用	48	古文書の整理・解読の推進	○
	49	八戸市史編さん事業	◎

※27…平成27年度新規事業

方向性Ⅲ 大災害を乗り越えるための知識と心構えを養います

各目標ごとの施策の分類	No.	取組名	評価
<b>目標5 被災者の支援と防災教育・防災体制の充実</b>			
①児童生徒の就学支援と教育相談の充実	53	教育相談による心のケア	○
②教育施設の避難所機能の充実	54	地区公民館の耐震化	○
③防災教育の推進	56	小・中学校における防災教育の推進	◎

方向性Ⅳ 地域・社会ぐるみの子育てを支援します

各目標ごとの施策の分類	No.	取組名	評価
<b>目標6 参加と連携の推進</b>			
①学校・家庭・地域の連携の推進	57	地域密着型教育推進事業(再掲)	◎
<b>目標7 社会教育・家庭教育の充実</b>			
①社会教育施設等の整備・充実	61	地区公民館を核とした地域コミュニティ活動の促進	○
②家庭・地域の教育力の充実	63	家庭の教育力充実事業	○

方向性Ⅴ あらゆる世代に多様な学習機会を提供します

各目標ごとの施策の分類	No.	取組名	評価
<b>目標9 生涯学習の充実</b>			
①多様な学習機会の提供	68	八戸市民大学講座	○
②特色ある社会教育施設活動の充実	72	学校出前講座の開催	◎
	75	図書館の利用促進	○
	78	是川縄文館各種展覧会・体験講座等開催事業	◎
	79	博物館・南郷歴史民俗資料館 各種展覧会・体験講座等開催事業	◎

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 1 就学前教育の充実
施策の分類	① 就学前教育内容の充実

所管課：教育指導課

取組	No.1	【重点取組】 幼保小連携推進事業
取組内容	市内全域の幼稚園・保育所(園)・認定こども園・小学校の教職員が、子どもの発達や互いの教育内容についての連携を深め、互いに理解し尊重し合って、幼児児童の学びの連続性を図ります。	

実施状況	実績値等	実施内容
	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後アンケート結果「理解しやすさ」「自分の課題解決のきっかけになったか」「これからの教育実践にいかせる内容だったか」の各項目で4段階評価の「満足」と「概ね満足」の合計が90%以上の評価を得た。</li> <li>研修会参加者119人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表者会議を5月と2月に開催した。</li> <li>全体研修会を8月5日に開催した。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①全体会(講演)                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>講師：宮城学院女子大学 教育学部 児童教育専攻特任教授 渡辺 徹 氏</li> <li>演題：気になる子どもの支援と幼保・小の連携</li> </ul> </li> <li>②分科会(幼保小指導者による話し合い)</li> </ul> </li> <li>各小学校区ごとに地区会を開催した。</li> <li>地区会の成果をまとめ、報告集を作成した。</li> <li>就学児保護者用パンフレット「わくわくいっぱい いちねんせい」を各幼稚園・保育所(園)・認定こども園及び就学先小学校を通して全対象保護者へ配布を、また、「幼保小連携推進事業報告書集」は全対象幼稚園・保育所(園)・認定こども園、小学校に配布した。</li> </ul>

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		◎	◎	◎	
評価理由	幼稚園・保育所(園)・認定こども園と小学校の校長・園長、教頭などの管理職レベルでの連携が増えている。 小学校からの報告書をまとめると、地区会における「指導者の交流」「子どもの交流活動」「保護者とのかわり」に関する実施内容の実施率が全て前年度を上回った。実施率が増えた主な実施内容:校長・園長等の話し合いの場の設定78%(12%増)、行事の参観98%(15%増)、交流活動87%(15%増) 幼保小連携研修講座での受講者アンケート結果によると「分科会でお互いの本音の部分を知ることができた」、講演会での話を聞いて「特別な支援を要する子に対する支援に関して詳しく理解することができた。また、機会があればお話を伺いたい。」など好評だった。				
今後の方向性	幼稚園・保育所(園)・認定こども園・小学校の連携が年々深まっており、幼保小連携の必要性や重要性が浸透してきている。今後も代表者研修会・幼保小連携研修講座[全体研修会]・地区会を活用して、特別な支援を要する子どもたちへの関わり等の共通の問題について研修を深めるなど、さらに幼稚園・保育所(園)・認定こども園・小学校相互の連携を図っていく必要がある。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 1 就学前教育の充実
施策の分類	② 就学前教育環境の整備・充実

所管課：図書館

取組	No.3	【重点取組】ブックスタート事業
取組内容	赤ちゃんと保護者が、絵本を介してゆっくりと心触れ合うひとときをもつ“きっかけ”をつくることを目的とし、総合健診センターで行われる股関節脱臼検診時に、対象の親子に読み聞かせのボランティアが絵本の読み聞かせをし、ブックスタートパックを手渡します。	

実施状況	実績値等	実施内容																											
	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間 48 回</li> <li>対象親子数 1,808 組</li> </ul> 対象は、八戸市民で生後 90 日～1 歳未満までの乳児とその保護者 平成 27 年出生 1,746 人 転入 62 人	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合健診センターで行われる股関節脱臼検診時に、読み聞かせのボランティアが数組の親子を対象にブックスタートの意義を説明し、絵本の読み聞かせを行い、ブックスタートパック（絵本 1 冊、イラストアドバイス集 1 冊、コットンバッグ、図書館利用案内、絵本のリスト等）を手渡す。</li> <li>配布数 1,730 組（健康増進課窓口配布分含む）</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>月</th><th>組数</th><th>月</th><th>組数</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>4 月</td><td>156</td><td>10 月</td><td>128</td></tr> <tr><td>5 月</td><td>144</td><td>11 月</td><td>145</td></tr> <tr><td>6 月</td><td>149</td><td>12 月</td><td>111</td></tr> <tr><td>7 月</td><td>168</td><td>1 月</td><td>138</td></tr> <tr><td>8 月</td><td>128</td><td>2 月</td><td>148</td></tr> <tr><td>9 月</td><td>138</td><td>3 月</td><td>177</td></tr> </tbody> </table>	月	組数	月	組数	4 月	156	10 月	128	5 月	144	11 月	145	6 月	149	12 月	111	7 月	168	1 月	138	8 月	128	2 月	148	9 月	138	3 月
月	組数	月	組数																										
4 月	156	10 月	128																										
5 月	144	11 月	145																										
6 月	149	12 月	111																										
7 月	168	1 月	138																										
8 月	128	2 月	148																										
9 月	138	3 月	177																										

評価		26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
		○	◎		
評価理由	配布率が 95.7%となり、昨年度を 10%上回った。事業の周知が進んだためと考えられる。				
今後の方向性	引き続き配布する絵本やブックスタートパックを手渡す機会の見直しなどを行いながら、赤ちゃんと保護者が、絵本を介してゆっくりと触れ合うひとときをもてるよう努める。	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止			

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 2 義務教育の充実
施策の分類	① 教育内容・指導の充実

所管課：教育指導課

取組	No.5	【重点取組】 地域密着型教育推進事業
取組内容	児童生徒の確かな学びと豊かな育ちに資することを目的として、地域密着型教育を推進し、推進校の運営に関して、地域の住民及び保護者等の参画等を進めるものとします。具体的には、保護者及び地域住民が学校運営に参画できる「地域学校連携協議会」を推進校に設置し、地域住民等と学校の協働による「開かれた学校づくり」を推進します。また、推進校にコーディネーターを配置し、学校支援ボランティアを活用できるよう予算措置をするとともに、「地域学校連携協議会」等の各組織が活性化するよう支援します。	

	実績値等	実施内容
実施状況	全小・中学校で実施  学校支援ボランティア数 ・一時的な活動 環境整備等 18,247人 ・継続的活動 図書・見守り等 789人	・市内全小中学校における実践（平成25年度～） 各学校または中学校区ごとに設置された「地域学校連携協議会」に、各校担当指導主事等が出席し支援と助言を行った。 各校において、学校支援ボランティアの導入を推進し、教育の質の向上に努めている。 ・市教委主催の行事等 (1) 推進校説明会(4月) (2) 推進校連絡会(管理職対象) 2回 (3) コーディネーター研修会 3回 (4) 教育の広場はちのへ(12月) (5) 実践発表会(1月) (6) 実践報告書作成(3月)

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	◎		
評価理由	学校支援地域本部事業の終了に伴い、全小中学校が教育指導課の地域密着型推進事業費を活用し、事務手続きを一本化して取り組むことができた。また、「第2回教育の広場はちのへ」では中居林小学校のコーディネーターによる実践発表、「実践研究発表会」では白山台小学校のコーディネーターによる実践発表と外部講師による講演・実践発表、その他にもボランティア活用の研修会等を行い、各校での取組について情報を共有した。これらの取組により、ボランティア数が増え、地域や家庭との連携が更に進み、充実した教育活動に取り組むことができた。				
今後の方向性	「地域学校連携協議会」の協議の充実を図るとともに、保護者・地域住民の事業についての理解を深めるため、各学校並びに市教育委員会からの情報発信に努める。 校長・教頭とコーディネーターの合同研修やコーディネーターの実践につながる研修の開催、コーディネーターの後継者の育成に関わる取組を工夫する。 「さわやか八戸グッドジョブウィーク事業」「小・中学校ジョイントスクール推進事業」等と連携を図りながら推進していく。 社会教育課の「教育支援ボランティア事業」との連携も推進していく。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止



方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 2 義務教育の充実
施策の分類	① 教育内容・指導の充実

所管課：教育指導課

取組	No.8	【重点取組】小・中学校ジョイントスクール推進事業
取組内容	中学校区の小・中学校が連携して「中1ギャップ」等を解消し、児童生徒の学びと成長・発達の連続性を保証し、「生きる力」の基盤となる学力、すなわち夢に向かって学ぶ意欲を高める確かな学力を保証することを目指します。	

	実績値等	実施内容
実施状況	推進実施中学校区 100% (24中学校区)  実践研究発表会参加者 72人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全中学校区で実践計画書(5月)、実践報告書(2月)を作成した。</li> <li>・ジョイントスクール実践研究発表会を1月18日に開催した。</li> <li>・全中学校区ごとに研修会を開催した。</li> <li>・全小・中学校に、ジョイントスクール推進事業の構想図が記載されたポスターを配布した。</li> </ul>

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	◎	◎	◎		
評価理由	全中学校区において研修会(年2~4回程度)が開催され、各中学校区では、児童生徒の情報交換、授業参観、小中合同の講演会、生徒指導や特別支援、学習等の部会ごとの話し合いなどが行われている。また、小小連携の取組も増えている。 各校では、配布されたポスターを目につく場所に掲示するなどして取組の周知を図っている。「実践研究発表会」において、小・中学校での学力向上やキャリア教育に関わる取組について共有することができた。 学校訪問において学習状況に関わる連携についての助言を行った。				
今後の方向性	地域密着型教育推進事業との関連を図りながら家庭・地域社会との連携協力及び共に育てるための組織づくりに努める必要がある。また、学校間では質の高い授業づくりのための各教科・領域等のカリキュラムづくりを図っていくことが望まれる。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 2 義務教育の充実
施策の分類	① 教育内容・指導の充実

所管課：こども支援センター

取組	No.13	【重点取組】教育相談・適応指導教室
取組内容	不登校児童生徒への適応指導や学校復帰支援、不登校の未然防止等の支援をします。また、市民や教職員に対して、幼児児童生徒の教育に関する相談に対応します。	

	実績値等	実施内容
実施状況	・教育相談部延べ回数 1,932回  全相談延べ回数2,953回	・電話相談、来所相談、巡回相談を実施した。 ・こども支援センター適応指導教室として、適応指導部と教育相談部で連携しながら、不登校状態の児童生徒への支援を行った。 ・集団活動の充実、個別の学習支援の充実を図った。 ・不登校未然防止に対応して小学校下学年適応支援活動「キッズ」を実施した。 ・月1回の事例検討会や研修会等への参加で相談員・指導員それぞれのスキル向上を図ることができた。

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	◎	◎		
評価理由	こども支援センターの周知が図られ、相談全体の延べ回数は昨年度の1,999回から2,953回となった。また、教育相談部の相談延べ回数は昨年度と比較して724回増だった。内容の多様化・複雑化により、継続相談になるケースが多かった。 通室人数は52名、継続して通室する児童生徒が多かった。また、適応指導教室の個別対応の補助や相談など、教育相談部、適応指導部との連携を図りながら業務を進めた。 適応指導教室通室の中学校3年全員が高校へ進学できた。また、その他の学年の児童生徒も部分復帰など学校とつながるケースが多く、復帰に向けた取組の成果が出てきている。 小学校下学年適応支援活動「キッズ」を実施、その経過を学校に報告し情報を共有することにより、学校での集団活動参加も円滑に進み、取組の成果が感じられた。				
今後の方向性	教育相談・適応指導教室ともに取組の充実が図られ、体制や機能も向上しているが、相談数の増加や内容の多様化・複雑化への対応がより難しくなっている。 個々の相談ケースの背景には、様々な要因が重なっていることが多く、複数での対応が必要だという現状がある。また、継続的な相談や築いた信頼関係を維持するためにも、相談員の増員とともに相談員や適応指導員が常時勤務できるような勤務形態の改善のための予算確保が必要である。 さらに相談の機能の向上のため、相談スキル向上のための研修費や相談に来る児童生徒に必要な検査や療育のための備品の予算確保が必要である。 適応指導では個別対応が必要な児童生徒が増えているため、今後も活動場所の確保・工夫を図ることや状況に応じて備品や教具を充実させていく必要がある。				<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 2 義務教育の充実
施策の分類	② 特別支援教育の充実

所管課：こども支援センター

取組	No.14	【重点取組】特別支援教育アシスト事業
取組内容	特別な教育的支援を必要とする児童生徒が在籍する学校に特別支援アシスタントを配置し、個々の教育的ニーズに応じた支援を行います。	

	実績値等	実施内容
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援アシスタント配置人数 76人 (小・中学校 70校) 田代小を含む</li> <li>研修会 3回実施</li> <li>参加者 8月65人 1月69人 3月69人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月6日～3月18日を委嘱期間とし、小学校 40校、中学校 18校に配置した。</li> <li>学校からの複数配置希望校を考慮し、のべ要望校92校に対して63%程度の配置状況。</li> <li>前期と後期に学校から活用報告書、本人から活動報告書を提出してもらい、状況把握に努めた。</li> <li>3月の事前研修と8月、1月に研修会を行った。</li> <li>アシスタントの配置による成果                         <ul style="list-style-type: none"> <li>①多動傾向や介助を必要とするなど特別な配慮を要する児童生徒が、継続して個別の対応を受けることで、集団生活に適応し落ち着いて学習することができるようになった。</li> <li>②当該児童生徒だけでなく、学級全体の学習保障にもつながった。</li> <li>③複数の目で児童生徒を見守ることから、安全の確保ができたこと、活動の幅が広がったことで、児童生徒が学習に対して成就感をもつことができるようになった。</li> <li>④個別に声をかけてもらう機会が増え、学習への自信につながったり意欲につながったりするケースがあった。</li> </ul> </li> </ul>

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	◎	◎		
評価理由	特別支援アシスタントの研修内容の工夫をしたり、経験年数を考慮した班編制による協議をしたりすることで、質の向上に努めることができた。複数配置や長時間対応の要望が増加していることを受け、平成 28 年度に向けて後期配置を 5 名から 10 名に増加した。				
今後の方向性	人数が増えたことを考慮し、配置のあり方、また適切な支援に関して専門指導員による助言を行うとともに研修内容がさらに深まるよう工夫し、特別支援アシスタントのさらなる資質向上に努めることが課題である。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 2 義務教育の充実
施策の分類	② 特別支援教育の充実

所管課：こども支援センター

取組	No.15	【重点取組】特別支援教育体制整備事業
取組内容	特別支援教育専門指導員を配置し、幼児児童生徒の検査を行ったり、保護者の相談に応じたりするとともに、校内の体制づくりや保護者・関係機関との連携について指導・助言を行うなど、特別支援教育に係る支援体制を充実させます。 教育・保健・福祉の連携による、子ども・教員・保護者を総合的に支援する体制づくりに努めます。	

実施状況	実績値等	実施内容																														
	・ 専門指導部延べ回数 1,021回  全相談延べ回数2,953回	・ こども支援センターの周知が図られ、専門指導部の相談延べ回数は昨年度と比較して230回増だった。 ・ 就学指導に関して幼保・認定こども園や小・中学校と連携し対応することができた。また、未就学児では、入学予定の小学校と情報共有を密にし、連携を図ることができた。																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>平成27年度(延べ回数)</th> <th>来所・電話相談</th> <th>巡回相談</th> <th>就学指導</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼・保</td> <td>181</td> <td>174</td> <td>49</td> <td>404</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>252</td> <td>249</td> <td>47</td> <td>548</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>17</td> <td>45</td> <td>6</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>その他(担任・支援員等)</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>451</td> <td>468</td> <td>102</td> <td>1,021</td> </tr> </tbody> </table>			平成27年度(延べ回数)	来所・電話相談	巡回相談	就学指導	合計	幼・保	181	174	49	404	小学校	252	249	47	548	中学校	17	45	6	68	その他(担任・支援員等)	1	0	0	1	合 計	451	468	102	1,021
平成27年度(延べ回数)	来所・電話相談	巡回相談	就学指導	合計																												
幼・保	181	174	49	404																												
小学校	252	249	47	548																												
中学校	17	45	6	68																												
その他(担任・支援員等)	1	0	0	1																												
合 計	451	468	102	1,021																												

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	◎		
評価理由	こども支援センターの周知が図られ、巡回相談等により、幼稚園・保育所(園)・認定こども園、小・中学校への特別支援教育の校内体制づくり等について指導・助言を行うことができた。また、限られた人員ではあるが、丁寧な相談を行うことで継続相談が増え、全体の延べ回数増加につながった。				
今後の方向性	専門指導員の専門性とスキルの向上のための研修費及び就学指導に係る必要な検査や療育のための備品の予算確保が必要である。 また、今後、より一層関係機関と連携を図り、早期発見・早期支援に努める必要がある。				<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 2 義務教育の充実
施策の分類	③ 健康に関する指導の充実

所管課：学校教育課

取組	No.18	【重点取組】学校保健活動の実施
取組内容	各学校での児童生徒の健康に関する課題について、学校・家庭・地域など関係機関が連携して研究協議を行い、健康づくりを効果的に展開する学校保健活動の実施を推進します。	

	実績値等	実施内容
実施状況	関係機関と連携した学校保健活動を行った学校数 59 校 / 70 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>各小・中学校に対して関係機関と連携した学校保健活動の計画を立てるよう依頼した。</li> <li>学校保健活動に対する学校医の参加案内を各小・中学校に依頼した。</li> <li>学校訪問において学校保健活動の実施状況を確認するとともに関係機関と連携した取り組みが行われるよう指導助言した。</li> </ul>

評価	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
	○	○	◎		
評価理由	学校保健活動を実施している学校においては、学校医や保護者、地域の方々も交えながら講演、歯磨き指導等、さまざまな活動を行っている。 また、学校保健活動に対する学校医・学校歯科医・学校薬剤師の参加を依頼した結果、専門的な指導を受けたり、ゲストティーチャー等、講師として依頼する学校が増加した。				
今後の方向性	各小・中学校に対する学校保健活動の実施の働きかけを推進するとともに、学校医、学校歯科医、学校薬剤師の参加率を上げていこう、学校および医師会、歯科医師会、薬剤師会との連携を図っていききたい。また、学校課題の解決に向けて、関係機関と情報交換をしたり、助言・指導をいただいたりしながら進めるよう働きかけていきたい。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 2 義務教育の充実
施策の分類	④ 教育環境の整備・充実

所管課：教育総務課

取組	No.20	【重点取組】学校施設の整備
取組内容	小・中学校の校舎や校庭などの教育施設で児童生徒が安全安心に過ごせるよう、危険な部分の改修や老朽化した部分を修理するなどの整備を行います。また、児童生徒数の変化に伴う設備規模の見直しや、省エネ機器の導入による省エネを進め、維持管理費の軽減を図ります。	

	実績値等	実施内容
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大規模営繕工事 38件</li> <li>・ 小規模営繕工事、修繕 296件 (学校からの要望により、緊急性・重要性を考慮し実施)</li> </ul>	<p>学校施設の安全対策及び教育環境改善など、緊急性・重要性を考慮しながら実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大規模営繕工事…38校</li> <li>・ 防災機能強化事業(非構造部材の耐震化) …36校 小学校22校、中学校14校</li> <li>・ 大規模改造事業(トイレ改修工事)…2校 小学校1校、中学校1校</li> <li>○小規模営繕工事…124件 小学校52件、中学校72件</li> <li>○修繕…172件 小学校100件、中学校72件</li> </ul>

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	◎	◎	◎		
評価理由	大規模営繕工事については、防災機能強化のための非構造部材の耐震化工事並びにトイレ大規模改修工事を実施した。 併せて、小規模営繕工事、修繕についても、緊急性・重要性を考慮し、優先度の高いものから順次実施した。				
今後の方向性	学校からの要望や点検及び毎年行っている「学校施設整備箇所調査」のすべての指摘事項等に対応することは困難であるが、引き続き緊急性・重要性を考慮しながら、効果的・効率的に営繕工事を実施していく。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 2 義務教育の充実
施策の分類	④ 教育環境の整備・充実

所管課：学校教育課

取組	No.22	【重点取組】小・中学校適正配置事業
取組内容	児童生徒の教育環境の充実を最大の目的として、通学区域や学区外通学許可基準の見直し、学校の統合や新設など、一律の基準で判断せず、それぞれの学校にとって最善の手法を検討・実施します。	

	実績値等	実施内容
実施状況	中期検討課題の検討を順次進めていく。	平成23年7月21日に策定した八戸市立小・中学校の適正配置に関する「基本方針」及び「検討課題」を踏まえて、検討着手スケジュールで「中期」に分類した検討課題の対象地域・学校に出向き、保護者、地域、学校の代表者と、それぞれの地域に応じた進め方を尊重しながら、話し合いを進めた。 南郷小学校の開校に向けて代表者会議等を開催し、校歌・校章などを決定した。  検討状況 ・代表者会議 3回

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	◎	○	○		
評価理由	南郷小学校の開校により、短期検討課題に一定の目処をつけることができた。				
今後の方向性	検討課題を踏まえ、今後も引き続き、保護者や地域住民に対して、十分な情報提供と丁寧な説明を行いながら話し合いを進めていきたい。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 2 義務教育の充実
施策の分類	④ 教育環境の整備・充実

所管課：教育指導課

取組	No.23	【重点取組】マイブック推進事業
取組内容	幅広い世代の人たちが本に親しむ環境づくりを目的とした「本のまち八戸」の事業の一つとして実施しています。市内全小学校と特別支援学校小学部の児童にマイブッククーポンを配り、小学生が保護者とともに書店に出かけ自ら本を選び購入する体験を通して、読書に親しむ環境づくりを推進します。	

	実績値等	実施内容
実施状況	市内小学校と特別支援学校小学部に 100%配布  使用されたクーポンの割合（枚数） 94.8%  クーポンを使用した児童の割合（人数） 96.8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内全小学校と特別支援学校小学部児童にマイブッククーポンを一人につき 2,000 円分（500 円×4 枚）を配付した。</li> <li>マイブッククーポンを使用して、児童と保護者と一緒に書店に出かけ本を購入した。</li> <li>各小学校ではマイブッククーポンで購入した本を学校での読書活動等に活用した。</li> <li>事業の実施状況について、児童及び保護者、各学校、参加書店に対してアンケート調査を行い、結果を公表した。</li> </ul>

評価	年度			
	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
	○	◎		
評価理由	配付されたクーポンのうち使用されたクーポンの枚数の割合は 94.8%で、昨年度より 5.9%増加した。また、クーポンを 4 枚中 1 枚でも使用した児童の人数の割合は 96.8%で、全く使用しなかった児童は減少した。 活用後の感想には「是非、今後も事業を続けてほしい。」「子どもと書店に行くことができ楽しかった。」という声が多かった。 2 年目になり、各校での保護者への周知方法に工夫が見られ、児童にも保護者にもクーポンの使い方や良さが広がっている。			
今後の方向性	より多くの児童がブッククーポンを使用できるように、保護者への周知を図るとともに、参加書店と連携して使用しやすい環境づくりに努める。 クーポンで購入した本を活用した各校での取組について共有し、子どもたちの読書環境づくりや読書意欲につなげていく。			<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止



方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 2 義務教育の充実
施策の分類	④ 教育環境の整備・充実

所管課：教育総務課

取組	No.24	【重点取組】西白山台小学校建設事業
取組内容	ニュータウンの開発に伴い、白山台小学校の児童数が年々増加しており、二度の校舎増築によっても教室不足を解消できない状況にあること、白山台地区における児童数は今後も増加する見込みであることから、児童の教育環境の充実を図るため、西白山台小学校を建設します。	

実施状況	実績値等	実施内容
	・事業進捗率（校舎・屋内運動場工事） 平成 27 年度 100%	平成 27 年 10 月 一般競争入札により受注者を決定し着工した。  平成 27 年 10 月 受注者決定 平成 29 年 3 月 工事完了、開校準備 平成 29 年 4 月 開校

評価					
	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	
	○	○			
評価理由	平成 27 年 8 月に予定していた建設工事入札が中止となり、当初予定から 1 ヶ月半の遅れで受注者を決定したことから、年度内の工事進捗率を 10%と設定し、計画どおり実施された。				
今後の方向性	平成 28 年度末の完成に向け、確実な工事实施と綿密な開校準備を進め、平成 29 年 4 月開校を目指す。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 2 義務教育の充実
施策の分類	⑤ 国際理解教育の推進

所管課：教育指導課

取組	No.26	【重点取組】国際理解教育・英語教育推進事業
取組内容	ALT(外国語指導助手)を小・中学校へ派遣し、小学校の外国語活動の授業や中学校の英語科の授業への補助、日本人教員に対する現職研修への補助、特別活動及び課外活動への協力を通して、小・中学生等への国際理解教育・英語教育を推進します。	

	実績値等	実施内容
実施状況	アンケート結果 ・4段階評価の3と4の割合 88.4%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校における外国語科等の授業の補助</li> <li>・小学校における外国語活動等の授業の補助</li> <li>・外国語教材作成の補助</li> <li>・外国語科担当教員等に対する現職研修の補助</li> <li>・特別活動や部活動等への協力</li> <li>・外国語担当指導主事や外国語担当教員等に対する語学に関する情報の提供</li> <li>・外国語スピーチコンテストへの協力</li> <li>・地域における国際交流活動への協力</li> </ul>

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	アンケートから「ALT(外国語指導助手)の活用等を通して、異文化や異なる文化をもつ人々を受容し、共生することのできる態度や能力」を育成できている学校の割合(4段階の3と4の割合)は88.4%であった。今年度は評価内容・評価時期等を見直し、全小・中学校を対象に勤務評価を行い、今後のALTの資質向上につながるよう工夫した。また、ALT月例会を活用し、ALTの資質向上に向けて取り組んだ。 学校からのALT勤務評価は概ね高かった。また、学校での外国語の授業以外でのALT活用や研究会でのALT活用が積極的に行われた。				
今後の方向性	ALTの活用等を通して、外国語の授業の質を上げていくことが今後の課題である。教員対象にALT活用に関わる研修会をもつなどの工夫に努める。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 2 義務教育の充実
施策の分類	⑥ 情報教育の推進

所管課：総合教育センター

取組	No.27	【重点取組】教育の情報化推進事業
取組内容	総合教育センターを核とした「八戸市教育情報ネットワークシステム」(HENS)の活用、校務支援システムの導入、タブレット PC や電子黒板等新しい機器の活用を視野に入れた ICT 環境の整備・改善を通して、教育の情報化を推進します。	

	実績値等	実施内容
実施状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ USBデバイス認証システム (Fogosシステム) の更新を行った。</li> <li>・ 校務支援システムの導入を行い、試験運用を行った。</li> <li>・ 事務用コンピュータの更新を行った。</li> <li>・ 小学校学習用タブレットの新規導入を行った。</li> <li>・ 中学校12校で、特別教室への校内LAN拡張を行った。</li> <li>・ 学校訪問等とおして、授業で実物投影機・プロジェクターを積極的・効果的に活用するよう支援を行った。</li> <li>・ 電子黒板試験導入の計画を立てた。</li> <li>・ 中学校学習用タブレット導入の計画を立てた。</li> </ul>

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	USBデバイス認証システムの更新に伴い専用USBメモリが新しくなったことで不具合が減少し、これまで以上に安心・安全な環境の中で校務が行われている。 校務支援システム導入後、教育センターでの集中研修 (16回開催) 及び各校を巡回しての研修をとおして、システムの周知を図ることができた。 中学校12校への特別教室校内LAN拡張により、市内全中学校の特別教室への校内LAN整備が完了した。このことにより、ICTを活用した授業づくりの推進が図られた。 各小・中学校の授業において、よく分かる授業づくりに向け、実物投影機・プロジェクター・タブレット等のICT機器が日常的に活用されてきている。				
今後の方向性	教育の情報化推進事業を今後さらに推進していくためには、各中学校のコンピュータ機器等の更新及び校内LAN環境の改善を計画的に進めるなど、ICT環境を整備・充実させていく必要がある。 学校現場のニーズを的確に把握しながら、環境整備に向けた予算要求を計画的に行い、あわせて教員のICT指導力向上に資する研修体制を整えるなど、学校の支援を強化していく必要がある。 校務の効率化を進め、子どもと向き合う時間を確保するなど、教育の質の向上を図るために、校務支援システムの活用を推進する必要がある。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 3 高等学校教育・高等教育の充実
施策の分類	① 高等学校教育・高等教育の充実

所管課：学校教育課

取組	No.30	【重点取組】八戸市奨学金制度
取組内容	八戸市出身の優秀な高校生・専門学校生・大学生で、経済的理由により修学困難な者に対して奨学金を貸与・給付し、人材の育成を図るため、修学の援助を行います。また、安定した奨学金制度を継続していくため、貸与した奨学金の回収にも努めます。	

	実績値等	実施内容									
実施状況	貸与実績 74,520,000円 (高校、高専、短大、大学生等 延べ人数190人)  奨学金償還金回収率 (現年分) ・目標値(調定額) 62,400,828円 ・実績(収入済額) 56,492,161円 ・達成状況 90.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>就学機会の充実に資するため、市出身の優秀な学生で、経済的な理由により修学困難な者に学資を貸与した。</li> <li>未収金対策として、文書督促、電話督促等で回収率の向上に努めた。</li> <li>奨学金制度を拡充し、平成27年度から償還義務のない給付型奨学金制度(予約採用のみ)を導入し、平成28年度から給付を開始する奨学生を決定した。</li> </ul> <p>【給付型奨学金の募集人数及び採用人数の実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>高校予約</th> <th>大学予約</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>募集人数</td> <td>10人程度</td> <td>2人程度</td> </tr> <tr> <td>採用人数</td> <td>10人</td> <td>3人</td> </tr> </tbody> </table>		高校予約	大学予約	募集人数	10人程度	2人程度	採用人数	10人	3人
	高校予約	大学予約									
募集人数	10人程度	2人程度									
採用人数	10人	3人									

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	◎		
評価理由	就学機会を求める学生・生徒等の経済的支援が図られる成果があった。未収金対策として、文書督促、電話督促等を行った結果、達成状況が90.5%となった。給付型奨学金制度を導入し、平成28年度から給付を開始する奨学生を決定した。				
今後の方向性	就学機会を求める学生・生徒等の経済的支援をさらに拡充するため、奨学ゆめ基金を安定・充実させる。奨学金制度を拡充する一方で、貸与した奨学金の未収金がさらに増加することも予想されることから、今後も貸与未収金の回収率の向上が課題であり、引き続き文書督促や電話督促等を実施する必要がある。				<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 3 高等学校教育・高等教育の充実
施策の分類	① 高等学校教育・高等教育の充実

所管課：社会教育課

取組	No.32 【重点取組】 公開講座開催促進事業
取組内容	地元高等教育機関（八戸工業大学、八戸学院大学、八戸工業高等専門学校）と連携し、公開講座の開催を促進することにより、必要な協力・支援を行い、広く市民に学びの場を提供します。また、中心市街地で実施することでのぎわいの創出にも寄与します。

	実績値等	実施内容
実施状況		<p>① 平成 27 年 8 月 10 日（月） 10：00～12：00 「空気砲を作って遊ぼう！」 於／はっち 2 階 主催／教育委員会 共催／八戸工業高等専門学校 対象／小学校 4 年生 募集人数／40 人 参加料／無料 参加人数／18 人</p> <p>② 平成 27 年 10 月 23 日（金） 18：00～20：00 「スポーツ動作の科学～スポーツ科学の目から見た 良い動きとは？」 於／はっち 1 階 主催／八戸工業大学 共催／教育委員会 対象／一般（中学生以上） 想定人数／30 人 参加料／無料 参加人数／53 人</p>

自己評価		27 年度	28 年度	29 年度
		○		
評価理由	一回目の講座は、募集人数には満たない参加人数だったが、夏休みの宿題にもできるものとして、参加者には好評であった。また、二回目の講座は、想定人数を大幅に超えるなど大変好評であり、評価できる。			
今後の方向性	初年度である平成 27 年度は 2 回の開催であったが、平成 28 年度はさらに回数を増加させ、市民が参加する機会を増やしたい。 各高等教育機関と連携し、新規の講座の企画や、各機関が単独で計画している講座を協力・支援することにより、中心市街地での開催回数の増加に努める。その際に、受講対象者に応じた開催日時・曜日の設定について検討する。			<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性Ⅱ 八戸の個性豊かな文化と恵まれた自然に対する誇りと愛着をはぐくみます
目標	目標4 文化財の保存と活用
施策の分類	① 史跡・名勝・天然記念物などの保存・活用

所管課：是川縄文館

取組	No.33	【重点取組】是川縄文の里整備事業
取組内容	是川遺跡の発掘成果をもとに、「縄文の里」を生涯学習及び観光・まちづくりの拠点として整備するとともに、是川遺跡や縄文文化に関する情報を発信します。	

実施状況	実績値等	実施内容

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		○	○	○	
評価理由	用地取得を継続し、保存活用計画を策定し、史跡の保存と整備に向けて事業を推し進める準備が整った。関連団体等との連携を図った。				
今後の方向性	整備に向けた用地取得を継続する。 整備に関する計画を策定するため、整備検討委員会を設置する。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

Ⅱ－４－①－取組34 【重点取組】北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群の世界遺産登録の推進

方向性	方向性Ⅱ 八戸の個性豊かな文化と恵まれた自然に対する誇りと愛着をはぐくみます
目標	目標4 文化財の保存と活用
施策の分類	① 史跡・名勝・天然記念物などの保存・活用

所管課：是川縄文館・社会教育課

取組	No.34	【重点取組】北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群の世界遺産登録の推進
取組内容	是川石器時代遺跡及び長七谷地貝塚の2史跡を含む、北海道・青森・岩手・秋田の4道県に所在する縄文時代の代表的な17の遺跡により、世界遺産の登録を目指します。	

実施状況	実績値等	実施内容

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	文化庁より示された課題に対し、縄文遺跡群世界遺産登録専門家委員会等の助言を得ながら取組み、準備状況報告書を提出した。確実な登録を目指すため、示された課題を直ちに解決できない長七谷地貝塚は、一旦除外することとなった。 市民向けの各種周知活動により、世界遺産登録への機運醸成が図られた。				
今後の方向性	4道県推進本部会議にて「直近」の機会に推薦を目指すこととしている。ユネスコへの推薦は準備が整った資産から行うとされているため、引続き、示された課題に対して取組み、推薦を目指す。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性Ⅱ 八戸の個性豊かな文化と恵まれた自然に対する誇りと愛着をはぐくみます
目標	目標4 文化財の保存と活用
施策の分類	③ 民俗文化財の保存・継承

所管課：社会教育課

取組	No.41	【重点取組】無形民俗文化財後継者養成事業
取組内容	市内に今も残る伝統芸能は、それに携わる人々の努力とともに、小・中学校のクラブや部活動に取り上げられているものも多く、これらが連携して受け継がれています。こうした活動を続ける神楽などの保存団体に対し、用具の修理や後継者養成に要する経費の一部を補助することによって、無形民俗文化財の保存と伝承を図ります。	

実施状況	実績値等	実施内容
	交付実績 ・団体数 10件 ・交付金額 565,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>無形民俗文化財保存団体に対し、用具修理や後継者養成等に要する経費を対象として補助金を交付した。</li> <li>交付団体 八戸騎馬打毬会、高館駒踊保存会、鮫神楽保存会、靄神社法霊神楽保存会、白銀四頭権現神楽保存会、八戸藩伝神道無念流居合保存会、中野神楽保存会、大平大神楽、島守虎舞保存会、八戸三社大祭山車祭り行事保存会</li> <li>昭和54年度から市単独事業として実施。</li> </ul>

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	補助金交付により、後継者養成の一助となるとともに、用具の修理が進むなど、伝統的民俗芸能の保存・伝承に一定の効果があった。				
今後の方向性	各団体の活動規模にもよるが、補助限度額に満たない団体もみられるため、補助対象経費に関する事業者への説明を充実させ、補助金の有効活用を図る必要がある。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止



Ⅱ－４－③－取組 44 【重点取組】八戸三社大祭のユネスコ無形文化遺産登録の推進

方向性	方向性Ⅱ 八戸の個性豊かな文化と恵まれた自然に対する誇りと愛着をはぐくみます
目標	目標 4 文化財の保存と活用
施策の分類	③ 民俗文化財の保存・継承

所管課：社会教育課

取組	No.44	【重点取組】八戸三社大祭のユネスコ無形文化遺産登録の推進
取組内容	八戸三社大祭の周知と保護を図るため、「山・鉾・屋台行事」の構成資産として、ユネスコ無形文化遺産登録（代表一覧表記載）の推進を行います。	

	実績値等	実施内容
実施状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>ユネスコ無形文化遺産登録に係る文化庁及び全国山・鉾・屋台連合保存会並びに登録資産構成団体との連絡調整を行った。</li> <li>八戸三社大祭山車祭り行事保存会の研修会において、「ユネスコ無形文化遺産と何か」と「八戸三社大祭の位置付け」について講演を行った。</li> </ul>

自己評価				
		27年度	28年度	29年度
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化庁や他団体と連絡を密にし、ユネスコ無形文化遺産登録の進捗状況及び登録に向けた活動状況を把握した。</li> <li>研修会開催により、祭り関係者のユネスコ登録と八戸三社大祭の文化財的価値に対する理解が深まり、機運の醸成が図られた。</li> </ul>			
今後の方向性	ユネスコ無形文化遺産への登録の推進を行い、平成 28 年秋に予定される登録後は、これを記念して行う祝賀会及び記念誌制作等記念事業を円滑に実施する。			<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性Ⅱ 八戸の個性豊かな文化と恵まれた自然に対する誇りと愛着をはぐくみます
目標	目標4 文化財の保存と活用
施策の分類	⑤ 歴史記録の保存・活用

所管課：図書館

取組	No.48	【重点取組】古文書の整理・解読の推進
取組内容	<p>八戸市の歴史の解明となる古文書を、良好な状態で整理・保存するとともに、市文化財に指定されている『八戸藩日記』の解読作業や『遠山家日記』の校正作業を推進し、市民が利用できるよう努めます。</p> <p>※『八戸藩日記』…1665(寛文5)年～1869(明治2)年の205年間にわたる八戸藩政の記録</p> <p>※『遠山家日記』…1792(寛正4)年～1919(大正8)年までの117年間にわたって八戸藩士の目を通して記された八戸藩政の動向や社会の動静の記録</p>	

実施状況	実績値等		実施内容
	解読冊数	52冊	<p>八戸藩日記の解読作業を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 解読冊数52冊(八戸藩勘定所日記9冊、八戸藩御用人所日記43冊)</li> <li>・ 解読延べ冊数475冊(八戸藩日記全冊数607冊)</li> <li>・ 古文書整理作業により修正した目録と現物の照合を行い、変更が必要なものを修正</li> <li>・ 誤返却防止のため、古文書取扱いマニュアル・配置図・インデックス等作成</li> <li>・ 『遠山家日記』刊行に向け、解読文の校正作業を行った。</li> </ul>

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度								
	○	○	○										
評価理由	<p>解読作業促進のため謝礼の支払形態を、平成26年度までの解読冊数に応じてではなく、1文字あたりの出来高制へと変更した。</p> <p>熟練した解読員が高齢なこともあり、自宅での解読を可能としたことで解読作業が進んだ。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40冊</td> <td>30冊</td> <td>38冊</td> <td>52冊(2,053,157字)</td> </tr> </tbody> </table>					24年度	25年度	26年度	27年度	40冊	30冊	38冊	52冊(2,053,157字)
24年度	25年度	26年度	27年度										
40冊	30冊	38冊	52冊(2,053,157字)										
今後の方向性	<p>解読を促進するためには、解読技術を持った人材の確保が必要である。</p> <p>また、原本を良好な状態で保存するため、複写物の作成やデジタル化を推進していきたい。</p>			<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止									

方向性	方向性Ⅱ 八戸の個性豊かな文化と恵まれた自然に対する誇りと愛着をはぐくみます
目標	目標4 文化財の保存と活用
施策の分類	⑤ 歴史記録の保存・活用

所管課：図書館

取組	No.49	【重点取組】八戸市史編さん事業
取組内容	八戸市の歴史に関する資料を収集し、市史の編さん作業を進めます。刊行終了後は、その成果の普及に努めるとともに、収集資料等の保存・公開を行います。	

	実績値等	実施内容
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>刊行数 『市史双書』1巻</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度で終了した市史編さん事業を継承する組織として、平成27年度より歴史資料グループが創設された。</li> <li>市史収集資料の整理・保存・公開に向けて、資料保管場所の移動を行い、一括管理とした。</li> <li>『八戸市史収集文書目録 第13集』を発行し、収集資料の公開に努めた。</li> <li>「市史講座」を7回開催し、成果の普及と販売促進に努めた。</li> <li>八戸三社大祭のユネスコ無形文化遺産登録を視野に、市史双書『概説 八戸三社大祭』を刊行した。</li> <li>芥川賞作家で八戸市名誉市民の三浦哲郎氏関連資料目録の作成を行った。立花京子氏より855点の寄贈を受け、10月31日～11月8日に「三浦哲郎資料展」を開催し、公開した。</li> </ul>

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	◎	◎		
評価理由	上記の実施内容のほかに、これまで業務グループで管轄していた図書館所蔵古文書の担当と郷土資料関係事務を歴史資料グループへ移管し、業務の円滑化を図った。また、2階カウンター業務を、これまでの業務グループ員1人体制から新たに歴史資料グループ員1人を加えて2人体制としたことで、これまで以上に利用者サービスの向上と資料管理の強化に努めている。				
今後の方向性	『新編 八戸市史』の刊行終了に伴って市史編纂事業は終了したが、平成27年度より図書館歴史資料グループが、その成果の普及を図るとともに、収集資料等の保存・公開を行う。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性Ⅲ 大災害を乗り越えるための知識と心構えを養います
目標	目標 5 被災者の支援と防災教育・防災体制の充実
施策の分類	① 児童生徒の就学支援と教育相談の充実

所管課：こども支援センター

取組	No.53	【重点取組】教育相談による心のケア
取組内容	震災によって子どもが受けた心の傷は、数年経ってから何らかの症状となって表れることもあります。災害によって不安定となった子どもの心のケアや予防活動を行います。また、今後の自然災害や緊急事態における子どもや保護者、教職員に対する心のケアの相談窓口としての対応に備えます。	

実施状況	実績値等	実施内容
		<ul style="list-style-type: none"> <li>心のケア支援事業                     <ul style="list-style-type: none"> <li>5月 1日 新井田小学校 拡大校内研修講師派遣</li> <li>7月 9日 市川中学校 拡大校内研修講師派遣</li> <li>12月24日 生徒指導・保健部会冬期講習会講師派遣</li> <li>2月16日 明治小学校 拡大校内研修講師派遣</li> </ul> </li> <li>市内各小中学校へ震災に関わる心のケアリーフレットを配布した。</li> <li>教職員に対するメンタルヘルス(カウンセリング)を実施した。</li> </ul>

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	大学教授・臨床心理士による演習を交えた講演を行い、児童生徒の心のケアについて、見取りや接し方の学びをすることができた。 リーフレット配布により気づきを促し、来所相談にきた保護者に対応することができた。 教職員のメンタルヘルスに早期対応ができた。				
今後の方向性	個々の学校からのニーズに対応するため、大学教授、臨床心理士による拡大校内研修への支援の継続。 教職員のメンタルヘルスに関して、早期発見、早期対応に努める。 心のケアリーフレットの配布。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性Ⅲ 大災害を乗り越えるための知識と心構えを養います
目標	目標 5 被災者の支援と防災教育・防災体制の充実
施策の分類	② 教育施設の避難所機能の充実

所管課：社会教育課

取組	No.54	【重点取組】地区公民館の耐震化
取組内容	災害時の指定避難所、防災拠点である地区公民館の耐震化は非常に重要であることから、昭和56年以前に建設された公民館について、国の交付金等を活用して耐震診断と耐震改修の促進に取り組めます。	

	実績値等	実施内容
実施状況		<p>館、江陽公民館について平成25年度に閉鎖。</p> <p>館、江陽公民館については工事の追加等により平成27年度中の完成は出来なかったが、平成28年7月末の工事完了へ向けて取り組んでいく。</p> <p>根城公民館は平成28年度中の建替えに向けて、平成27年度に地質調査、基本・実施設計業務を実施した。</p> <p>是川公民館は平成27年度に地質調査、基本・実施設計業務を実施、平成28年度は建設用地造成工事を行い、平成29年度中の建替えに向けて取り組んでいく。</p>

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	館公民館、江陽公民館については、工事の追加等により平成27年度中の完成は出来なかったが平成28年7月末の完了へ向けて工事は進行している。根城、是川公民館については、地質調査、基本・実施設計業務を実施した。				
今後の方向性	<p>館、江陽公民館については、平成28年度7月末の工事完了へ向けて、根城公民館については、平成28年度末の工事完了へ向けて取り組んでいく。</p> <p>是川公民館については、平成28年度建設用地造成工事、平成29年度工事完了へ向けて取り組んでいく。</p>				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性Ⅲ 大災害を乗り越えるための知識と心構えを養います
目標	目標5 被災者の支援と防災教育・防災体制の充実
施策の分類	③ 防災教育の推進

所管課：教育指導課

取組	No.56	【重点取組】小・中学校における防災教育の推進
取組内容	東日本大震災での多くの教訓を生かし、これまで以上に児童生徒一人一人が自分の命を自ら守る力を養う教育に力を入れていく必要がある。そこで、各小・中学校が開催する防災教室に対し、講師(防災士、消防士、高等教育教員、危機管理職員等)を派遣し、災害時に児童生徒が自らの命を守ろうとするための適切な行動ができるように、自らの危険を予測し、危険を回避しようという態度や能力の育成を支援します。	

実施状況	実績値等	実施内容
	実施回数 10回 アンケート結果 ・防災意識の高まりを感じた児童生徒の割合 99.6%	小学校 8校、中学校 2校、計10回実施した。 (講師別：防災士 5回、防災危機管理職員 4回、消防士 1回) 各実施校で、児童生徒対象にアンケート調査を行い、成果をまとめた。 平成27年4月に配付した「八戸版防災ノート」を活用した授業実践や学校現場からの意見をもとに内容の見直しを行い、「防災ノート」(改訂版)を作成した。

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		○	◎	◎	
評価理由	実施校の事後アンケートの結果、99%以上の児童生徒が、防災意識の高まりを感じていた。防災の学習の副読本として活用できるよう、「防災ノート」(改訂版)を作成することができた。				
今後の方向性	家庭や地域社会と連携した防災体制を充実させていくことが今後の課題である。 平成28年4月に市内小中学校に配付した「防災ノート」(改訂版)をもとに、平成28年度は教科等研究委員会を中心に家庭と連携した防災意識の向上につながる活用方法等を検討していく。 市民への周知の工夫に努めていく。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性IV 地域・社会ぐるみの子育てを支援します
目標	目標6 参加と連携の推進
施策の分類	① 学校・家庭・地域の連携の推進

所管課：教育指導課

取組	No.57	【重点取組】地域密着型教育推進事業(再掲)
取組内容	児童生徒の確かな学びと豊かな育ちに資することを目的として、地域密着型教育を推進し、推進校の運営に関して、地域の住民及び保護者等の参画等を進めるものとします。具体的には、保護者及び地域住民が学校運営に参画できる「地域学校連携協議会」を推進校に設置し、地域住民等と学校の協働による「開かれた学校づくり」を推進します。また、推進校にコーディネーターを配置し、学校支援ボランティアを活用できるよう予算措置をするとともに、「地域学校連携協議会」等の各組織が活性化するよう支援します。	

	実績値等	実施内容
実施状況	全小・中学校で実施  学校支援ボランティア数 ・一時的な活動 環境整備等 18,247人 ・継続的活動 図書・見守り等 789人	・市内全小・中学校における実践（平成25年度～） 各学校または中学校区ごとに設置された「地域学校連携協議会」に、各校担当指導主事等が出席し支援と助言を行った。 各校において、学校支援ボランティアの導入を推進し、教育の質の向上に努めている。 ・市教委主催の行事等 (1) 推進校説明会(4月) (2) 推進校連絡会(管理職対象) 2回 (3) コーディネーター研修会 3回 (4) 教育の広場はちのへ(12月) (5) 実践発表会(1月) (6) 実践報告書作成(3月)

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	◎		
評価理由	学校支援地域本部事業の終了に伴い、全小中学校が教育指導課の地域密着型推進事業費を活用し、事務手続きを一本化して取り組むことができた。また、「第2回教育の広場はちのへ」では中居林小学校のコーディネーターによる実践発表、「実践研究発表会」では白山台小学校のコーディネーターによる実践発表と外部講師による講演・実践発表、その他にもボランティア活用の研修会等を行い、各校での取組について情報を共有した。これらの取組により、ボランティア数が増え、地域や家庭との連携が更に進み、充実した教育活動に取り組むことができた。				
今後の方向性	「地域学校連携協議会」の協議の充実を図るとともに、保護者・地域住民の事業についての理解を深めるため、各学校並びに市教育委員会からの情報発信に努める。 また、学校教育の質の向上のために「教育支援ボランティア」の活動を推進する。校長・教頭とコーディネーターの合同研修やコーディネーターの実践につながる研修の開催、コーディネーターの後継者の育成に関わる取組を工夫する。「さわやか八戸グッジョブウィーク事業」「小・中学校ジョイントスクール推進事業」等と連携を図りながら推進していく。 社会教育課の「教育支援ボランティア事業」との連携も推進していく。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性IV 地域・社会ぐるみの子育てを支援します
目標	目標7 社会教育・家庭教育の充実
施策の分類	① 社会教育施設等の整備・充実

所管課：社会教育課

取組	No.61	【重点取組】 地区公民館を核とした地域コミュニティ活動の促進
取組内容	公民館は、地域住民へ充実した学習機会を提供するとともに、住民のまちづくりや地域づくり活動を推進するため、施設を会合や準備作業等の場として積極的に提供します。 また、職員は地域の実情に合わせ、地域づくりに取り組む人材の育成や団体の組織化などを柔軟に支援します。	

実施状況	実績値等	実施内容
	貸館件数 平成27年度 1,211件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町内会などの地域の団体への貸館</li> <li>・ 地域づくり支援用パソコンの貸出</li> <li>・ 地域づくり団体への複写機・輪転機の使用料の減免（平成27年度より）</li> </ul>

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		○	○	○	
評価理由	町内会や地域づくり団体への貸館件数は、前年度より減少したものの、地域づくりに取り組む支援の具体策として、複写機及び輪転機を無料で利用できるようになったため、住民のまちづくり活動・地域づくり活動の活性化に寄与している。				
今後の方向性	町内会や地域づくり団体への貸館の推進や、地域づくりに取り組む支援の具体策として、複写機・輪転機の無料使用を継続するとともに、それらの団体が行う人材の発掘や育成を、積極的に支援する。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止



方向性	方向性IV 地域・社会ぐるみの子育てを支援します
目標	目標7 社会教育・家庭教育の充実
施策の分類	② 家庭・地域の教育力の充実

所管課：社会教育課・総合教育センター・図書館・博物館

取組	No.63	【重点取組】家庭の教育力充実事業
取組内容	家庭教育や子育てに関する専門家を講師に招き、教育関係者や子育て中の保護者を対象に家庭教育研修会を開催します。また、幼稚園・保育所(園)・小・中学校及びPTAを実施主体として、家庭教育に関する講座「子育て・親育ち講座」を実施し、家庭における教育力の充実に図ります。さらに、児童科学館・公民館・図書館・博物館においても、子育てに関する学級や、親子で学習する講座など、各施設の特性を生かした講座を開催します。	

実施状況	実績値等	実施内容
	講座等開催回数 ・家庭教育研修会 3回 ・子育て・親育ち講座 20回 ・児童科学館 9回 ・図書館 31回 ・博物館 9回	<b>【社会教育課】</b> 家庭教育研修会を3回開催、1,101人が参加。 子育て・親育ち講座を20回(23小中学校・幼稚園)開催。 <b>【児童科学館】</b> 保護者を対象に映像を利用した学習会や講師を招いての学習会など「映像利用学習会」を9回開催、282人が参加。 <b>【図書館】</b> 「調べる学習講座」「調べる学習相談会」「ちいさなこどものためのわらべうたと絵本の会」を開催した。南郷図書館では「NAN号てんもん教室」「調べる学習講座」「おひざにだっこ」を開催した。31回開催、353人が参加。 <b>【博物館】</b> 「折り紙かぶと」教室など9回開催、250人が参加。

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		○	○	○	
評価理由	家庭教育研修会は他の講座との併催などとし、講座の内容を広く周知することができた。また、託児室を開設し、保護者が受講しやすい環境づくりを行った。子育て親育ち講座は保護者のニーズを把握しやすい学校、幼稚園、保育園を実施主体とし、平成26年度よりも講座の開催が増加した。図書館の図書等を活用し、読書に親しむことにつながるよう、親子で一緒に学ぶ講座やスキニップを図る教室等、親子を対象とした講座の開催に努めた。				
今後の方向性	家庭教育研修会は子育て世代の市民が関心のもてる講座の開催に努める。また、多くの方が参加しやすくなるよう、開催場所・時間などを工夫する。 子育て・親育ち講座は幼稚園・保育園での実施が少ないことから、年度途中の再実施依頼をするなど、講座の周知に努める。 映像の活用など、児童科学館ならではの子育て支援を目指し継続していく。 親子でふれあうことや学ぶことの楽しさを伝えるための周知・広報に努める。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性V あらゆる世代に多様な学習機会を提供します
目標	目標9 生涯学習の充実
施策の分類	① 多様な学習機会の提供

所管課：社会教育課

取組	No.68	【重点取組】八戸市民大学講座
取組内容	市民の生涯学習の場として、各分野における専門家や第一人者、八戸市に縁のある人物、地元大学などから講師を迎え、変化する社会の動きに興味・関心をもち、豊かな教養を身に付けられるような講座を開設します。	

	実績値等	実施内容
実施状況	平成27年度 ・受講者数 6,526人 ・修了者数 132人	各分野における専門家や第一人者、八戸市に縁のある人物、地元大学などから講師を迎え、前期9講義、後期9講義の全18講義を開催した。 修了者は、全講座のうち2/3(12回、平成23年度は10回以上)受講した者  ・受講者を対象としたアンケート調査結果 回答者数 242人 (男92人/女147人/未記入3人) 内訳 10-20代 12人/30-40代 44人/50代 36人/60代 73人/70代 60人/80代以上 14人/未記入 3人

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	受講者アンケートによる満足度は満足35.95%、まあまあ満足37.19%、普通18.18%、やや不満足3.31%、不満足0.83%(未記入3.31%、無回答1.24%)となっており、受講者の年齢層に偏りが見られるものの、幅広い年齢層の方が受講し、概ね高評価と考える。				
今後の方向性	市民の生涯学習の一環として開設している市民大学講座をより充実させるため、社会の動向に対して興味・関心を養えるような講座の開設に引き続き努める。受講者の年齢は60代～70代、性別は女性が多く、若い世代と男性にも興味を持ってもらえるような講座内容の設定が必要であることから、市民へのアンケート調査を平成28年度も実施する予定であり、調査結果を基に講座内容、実施方法の見直し等を検討する予定である。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性V あらゆる世代に多様な学習機会を提供します
目標	目標9 生涯学習の充実
施策の分類	② 特色ある社会教育施設活動の充実

所管課：総合教育センター・図書館・是川縄文館・博物館

取組	No.72	【重点取組】学校出前講座の開催
取組内容	【児童科学館】小・中学校を会場として科学実験や天文教室を行い、児童生徒が本物の科学に出会えるよう支援します。【図書館】図書に関する理解や関心を深めてもらえるよう、職員が小・中学校へ出向き、教諭・ボランティア等を対象に、学校図書館の図書の整理や読み聞かせの仕方などについて講座を開催します。【是川縄文館・博物館】学芸員やボランティアが地域の文化財を生かした講座を開催し、郷土の歴史学習・体験学習を支援します。	

実施状況	実績値等	実施内容
	出前講座開催回数 ・児童科学館 34回 ・図書館 5回 ・是川縄文館 2回 ・博物館 6回 ・歴史民俗資料館 1回	<b>【児童科学館】</b> キッズ工房（工作体験・科学実験）、太陽と月の秘密、映写会、雲と天気の変化 <b>【図書館】</b> 学校図書館で、学校の希望する内容について講座を開催し、助言や情報提供を行った。 ・訪問校 小学校 3校 中学校 1校（2回） ・講座内容 図書の整理や配置、図書の修理、読み聞かせの仕方等 <b>【是川縄文館】</b> ・訪問校 小学校 1校、合同開催1回（是川小・是川中） ・講座内容 縄文土器作り等・講話、製作品野焼き指導 <b>【博物館・南郷歴史民俗資料館】</b> ・訪問校 小学校 7校 ・講座内容 「脱穀体験」「昔の暮らし」

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		◎	◎	◎	
評価理由	【児童科学館】 保育園・児童館・小学校・中学校からの要請により、園児児童生徒が本物の科学に出会えるよう、科学実験や天文教室を開催した。 【図書館】 学校図書館が活発に活用されるよう、市立図書館業務において経験を積んだ職員により、各学校図書館に応じた具体的な助言等に努めた。 【是川縄文館】 学校団体の要望に応じた日時と内容にもとづき開催し、学芸員による解説と、縄文是川ボランティアによる親しみある体験学習指導を行い、参加者からは好評であった。 【博物館・歴史民俗資料館】 学校からの要望による日時、内容等により開催した。学芸員が要望に応じた体験用の資料を持ち込み、資料解説や体験学習等を実施し、授業の一助となるよう努めた。				
今後の方向性	学校教育と連携し、小・中学校のニーズに応じた体験活動の検討に努めながら継続していく。また、各学校への広報活動を進め、利用校拡充に努める。 【是川縄文館】館内での利用の方が体験学習等とともに展示見学もすることができると、出前授業の要望が少ないが、今後も要望があった場合には積極的に応じていく。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性V あらゆる世代に多様な学習機会を提供します
目標	目標9 生涯学習の充実
施策の分類	③ 特色ある社会教育施設活動の充実

所管課：図書館

取組	No.75	【重点取組】図書館の利用促進
取組内容	市民の読書要求・調査研究を支援するため、子どもから大人まで、それぞれの世代が求める多種多様な資料の収集と広報活動の充実を図り、図書館の利用促進に努めます。また、図書館本館・南郷図書館・図書情報センターの相互利用や、移動図書館の巡回、分室の運営などにより、市民が利用しやすい図書館づくりに努めます。	

実施状況	実績値等	実施内容
	貸出冊数 平成27年度 798,881冊 目標値（過去3年間の平均） 794,463冊	市民の要望や社会的動向に配慮しながら、各分野にわたる資料を幅広く収集した（購入：14,609冊）。 資料を活用した各種イベントを企画し開催した〔季節や行事に合わせた図書の展示：3館合計217回、古文書解読講習会：（本館）5回、80人、本と雑誌のリサイクルフェア：3館合計1,204人、7,441冊など〕。 移動図書館車により、市内10コース51箇所を、毎月1回巡回し、貸出等を行った（貸出：29,312冊）。 5分室において、地域ボランティアにより、毎週1～2回、貸出等を行った（貸出：16,587冊）。 本館・南郷図書館・図書情報センターの3館は、どの館の図書でも貸出・返却ができることを、ホームページや館内カウンターで周知し、相互利用の促進に努めた（本館と南郷：延べ30,151冊、本館と情報センター：延べ18,438冊）。

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		○	○	○	
評価理由	貸出冊数の目標値を僅かながら上回った。資料収集においては、利用者ニーズを踏まえながら、あらゆる世代が求める資料を提供できるように努めた。また、本館・分館の相互利用、分室や移動図書館の運営により、広域的な利用ができるよう努めた。				
今後の方向性	内容が古く資料的価値がなくなったもの、利用が低下し同じ本が複数あるもの等の除籍を進め、資料の質を高めていきたい。 所蔵資料のPRイベントの企画、利用者サービスの内容の充実により、利用者を増やしていきたい。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性V あらゆる世代に多様な学習機会を提供します
目標	目標9 生涯学習の充実
施策の分類	③ 特色ある社会教育施設活動の充実

所管課：是川縄文館

取組	No.78	【重点取組】是川縄文館各種展覧会・体験講座等開催事業
取組内容	是川遺跡に関連する各種特別展、企画展を開催します。また、考古学講座等の講座やボランティア養成講座を開催し、体験講座等にボランティアを活用します。	

実施状況	実績値等	実施内容
	特別展・企画展 ・開催回数 4回 ・来館者 16,787人  体験講座等 ・開催回数 全 242回 ・参加者 7,893人	春・夏・秋の3回にわたり特別展・企画展を開催するとともに、パネル展「伝える-大正・昭和初期の是川遺跡記録写真」、考古学講座(年6回程度)、土曜日体験教室、日曜日縄文体験コーナー等の教育普及事業を行い、市民をはじめとする来館者に充実した学習機会を提供する。 特別展・企画展 ・「掘り day はちのへ」(4月25日～6月21日) ・「漆と縄文人」(7月25日～9月6日) ・「小川原湖周辺の縄文文化」(10月10日～11月23日) パネル展「伝える-大正・昭和初期の是川遺跡記録写真-」(12月19日～3月21日) ・入館者内訳 幼児 509人 / 小・中学生 2,271人 高校・大学生 414人 / 一般 8,466人 高齢者(市内65歳以上) 1,049人 その他 4,078人 合計 16,787人  教育普及事業 考古学講座 8回、体験学習講座 4回、ボランティア養成講座 26回、平成26年度遺跡発掘調査報告会 1回、遺跡発掘調査現地説明会 5回、土曜日体験教室 11回(8月除く毎月1回)、日曜日縄文体験コーナー 25回、夏休み縄文体験コーナー 9回、冬季日曜日縄文体験コーナー 20回、グループ・団体の体験学習 125回、一日考古学者体験 2回、企画展・特別展ギャラリートーク 12回、粘土で手形・足形づくり 2回

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		○	◎	◎	
評価理由	夏季特別展や考古学講座では、縄文時代の漆文化に注目した内容を企画し、展示では東日本各地の重要文化財をはじめとする優品を列品して、市民の関心が高まるように努めたほか、冬季にもパネル展を開催し、来館者・参加者数が増となった。また、企画展・特別展にちなんだギャラリートークや体験教室、考古学講座を開催し、参加者から好評を得た。				
今後の方向性	展覧会・体験講座等教育普及事業とともに、充実した魅力・内容の企画を検討するとともに、より一層の広報活動に努める。				<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止

方向性	方向性V あらゆる世代に多様な学習機会を提供します
目標	目標9 生涯学習の充実
施策の分類	② 特色ある社会教育施設活動の充実

所管課：博物館

取組	No.79	【重点取組】博物館・南郷歴史民俗資料館 各種展覧会・体験講座等開催事業
取組内容	歴史・民俗の各分野を紹介する特別展、企画展を開催します。また、博物館クラブ等の体験講座や講演会、根城史跡ボランティアガイド養成講座を開催します。	

実施状況	実績値等	実施内容
	特別展・企画展入館者数 ・博物館 入館者数計(7回開催) 15,542人 ・南郷歴史民俗資料館 入館者数計(2回開催) 1,926人	<b>【博物館】</b> ・特別展・企画展 7回開催 (かつて戦争の時代に、八戸フード記、新収蔵資料展、八戸の災害パネル展、えと展、えんぶり展、ひな人形展) ・入館者内訳 小・中学生 2,283人／高校・大学生172人／一般 5,020人 高齢者(市内65歳以上) 1,061人／その他 7,006人 合計 15,542人 ・博物館クラブ等の体験講座 9回開催 ・講演会 9回開催 ・ギャラリートーク 4回開催 ・館外フィールドワーク 12回開催 ・根城史跡ボランティアガイド養成講座 4回開催 <b>【南郷歴史民俗資料館】</b> ・企画展 2回開催 (日活・青春映画スター展、なつかしいこどものせかい展) ・入館者内訳 小・中学生 343人／高校・大学生 4人 一般 557人／高齢者(市内65歳以上) 408人 その他 614人 合計 1,926人 ・民俗講座 8回開催

評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
		◎	◎	◎	
評価理由	特別展「かつて戦争の時代に」は、戦後70周年となる機会に、戦争のもたらす悲惨さ、平和の尊さ、平和の大切さの記憶を未来へ伝えるために開催した。特別展「八戸フード記」は、八戸の風土に根ざした庶民の食文化を今一度思い起こし、それを記録するために開催した。当館では初めての、食をテーマにした特別展であった。 資料館は、戦中・戦後の昭和をテーマに展示しており、企画展も、それに従った内容のものにしている。企画展「日活・青春映画スター展」では、昭和30～40年代の日活映画作品で実際に着用・使用された衣装や小道具などを展示し、昭和の映画文化について親しむ機会とした。企画展「なつかしいこどものせかい展」では、子どもの衣食住や遊び、教育等について取り上げ、懐かしくも大切な子どもの世界について思いを馳せる機会とした。				
今後の方向性	市民のニーズに応じた展覧会・体験講座等の開催に努め、入館者を増やしたい。			<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 休止	

## 【重点取組以外の取組】

目標ごとの点検及び評価一覧

取組の概要・実施状況・評価結果

【重点取組以外の取組】 目標ごとの点検及び評価

方向性Ⅰ 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します

各目標ごとの施策の分類	No.	取組名	評価
<b>目標1 就学前教育の充実</b>			
②就学前教育環境の整備・充実	2	私立幼稚園補助金	◎
<b>目標2 義務教育の充実</b>			
①教育内容・指導の充実	4	学校訪問(計画訪問・要請訪問)	○
	6	さわやか八戸グッジョブウィーク事業	○
	7	学力実態調査	○
	9	各種研修の実施	○
	10	いじめの問題に対する取組	○
	11	学校飼育動物ネットワーク支援事業	◎
	12	いのちを育む教育アドバイザー事業	◎
③健康に関する指導の充実	16	「新体力テスト」の結果の活用	○
	17	栄養教諭・学校栄養職員の活用	◎
④教育環境の整備・充実	19	学校図書館を利活用した教育の充実	○
	21	新学校給食センター建設事業	○
⑤国際理解教育の推進	25	青少年派遣交流事業	◎
⑥情報教育の推進	28	教職員のICT活用指導力の育成	○
	29	情報モラル指導の充実	○
<b>目標3 高等学校教育・高等教育の充実</b>			
①高等学校教育・高等教育の充実	31	私立高等学校助成補助金	◎

方向性Ⅱ 八戸の個性豊かな文化と恵まれた自然に対する誇りと愛着をはぐくみます

各目標ごとの施策の分類	No.	取組名	評価
<b>目標4 文化財の保存と活用</b>			
①史跡・名勝・天然記念物などの保存・活用	35	史跡等環境整備事業	◎
	36	史跡根城の広場の活用事業	○
	37	名勝種差海岸の保護管理事業	○
	38	天然記念物「蕪島ウミネコ繁殖地」保護事業	○
	39	浜小屋及び漁撈民俗資料の保存・広報事業	○
②埋蔵文化財の記録保存	40	八戸市内遺跡発掘調査事業	◎
③民俗文化財の保存・継承	42	「民俗芸能の夕べ」開催事業	○
	43	郷土芸能ビデオライブラリー事業	○
④有形文化財の保存・管理	45	指定文化財管理事業	○
⑤歴史記録の保存・活用	46	先人周知事業	○
	47	史跡等標示事業	○
	50	研究紀要の発行	◎
	51	収蔵資料の活用	◎



方向性Ⅲ 大災害を乗り越えるための知識と心構えを養います

各目標ごとの施策の分類	No.	取組名	評価
<b>目標5 被災者の支援と防災教育・防災体制の充実</b>			
①児童生徒の就学支援と教育相談の充実	52	市奨学金の返済猶予及び申請要件の緩和	○
②教育施設の避難所機能の充実	55	小・中学校における避難所機能の整備	○

方向性Ⅳ 地域・社会ぐるみの子育てを支援します

各目標ごとの施策の分類	No.	取組名	評価
<b>目標6 参加と連携の推進</b>			
①学校・家庭・地域の連携の推進	58	さわやか八戸グッジョブウィーク事業(再掲)	○
②教育資源の多様な活用	59	教育支援ボランティア推進事業	○
<b>目標7 社会教育・家庭教育の充実</b>			
①社会教育施設等の整備・充実	60	公民館の施設整備	—
	62	図書館施設の整備	○
<b>目標8 青少年の健全育成</b>			
①青少年の健全育成活動の推進	64	少年相談センター活動	○
②青少年の交流の推進	65	南部藩ゆかりの都市との交流事業	◎
	66	青少年派遣交流事業(再掲)	◎
③青少年の地域活動の推進	67	青少年の地域活動の推進事業	○

方向性Ⅴ あらゆる世代に多様な学習機会を提供します

各目標ごとの施策の分類	No.	取組名	評価
<b>目標9 生涯学習の充実</b>			
①多様な学習機会の提供	69	放送大学支援事業	○
	70	公民館講座の開催	○
	71	ICT 講習会の開催	○
②特色ある社会教育施設活動の充実	73	児童科学館各種体験活動	◎
	74	「青少年のための科学の祭典」	○
	76	「調べる学習コンクール」の開催	◎
	77	「市史講座」の開催	◎
	80	博物館資料の収集・公開	○

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 1 就学前教育の充実
施策の分類	② 就学前教育環境の整備・充実

所管課：学校教育課

取組	No.2	私立幼稚園補助金			
取組概要	市内の私立幼稚園に対して、教材・教育備品の整備及び施設・設備の整備等に要する費用を助成し、幼児教育の振興と充実を図ります。				
実施状況	・ 交付申請のあった22園に対し、10,344,947円を交付した。				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	◎	◎	◎		
評価理由	・ 昭和58年度から市単独事業として実施しているものであり、教育環境の整備・充実が図られ、本市の幼児教育の振興に役立っている。				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 2 義務教育の充実
施策の分類	① 教育内容・指導の充実

所管課：教育指導課

取組	No.4	学校訪問(計画訪問・要請訪問)			
取組概要	「学校教育指導の方針と重点」に基づき、『『生きる力』を育む学校教育の充実』を図るために、義務教育9年間の学びと成長の連続性に配慮した『『わかった！できた！身についた！』が実感できる質の高い授業づくり』とそれを支える教師力・学校力の強化に向けて、各学校がどのように取り組んでいるかを把握し、授業改善・授業力向上への指導助言を行うとともに、校内研修を支援することを目的として、市内全小・中学校を対象に実施します。				
実施状況	計画訪問 ・市内全小・中学校を訪問した。 ・学校経営の説明に関する協議、授業参観と指導・助言等を行った。 要請訪問 ・64回(小学校43回、中学校21回)実施した。 ・集中授業を参観し、協議会で指導・助言を行った。				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	・計画訪問及び要請訪問を、予定通り実施した。 ・校内研究会において、ワークショップ型(全員参加型)の協議を取り入れる学校が増えるなど、校内研究が推進されてきている。 ・市で重点としている特別支援教育の視点を生かした授業づくりに関わる研修や国語・算数以外の要請訪問も増えてきている。				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止

所管課：教育指導課

取組	No.6	さわやか八戸グッジョブウィーク事業			
取組概要	「地域の子どもは地域ではぐくむ」という視点で、学校・家庭・地域社会が連携し、中学校2学年を対象として、地域の事業所における3～5日間の職場体験活動を通して、望ましい勤労観及び職業観を育成します。				
実施状況	・3～5日間の計画に基づき、中学校2学年を対象とし、市内全中学校で実施した。 ・12年度より実施。				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	・市内全中学校で実施し、キャリア教育の一環として取り組むことができた。 ・各学校の事後アンケート結果から、望ましい勤労観及び職業観とともに、自己有用感(自分は役立っているという気持ち)の高揚が見られた。 ・生徒の実態に応じて事前事後指導をさらに充実させていく必要がある。 ・地域、保護者との連携が深まっている。 ・地域密着型教育推進事業の組織との関連を図っていく必要がある。				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 2 義務教育の充実
施策の分類	① 教育内容・指導の充実

所管課：教育指導課

取組	No.7	学力実態調査			
取組概要	八戸市立各小・中学校の児童生徒の学力を把握し、学校教育に対する適切な指導・支援を推進するとともに、関係諸事業に活用しています。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月中に市内全小学校の5・6学年児童及び全中学校生徒を対象に学力調査(NRT)を実施した。</li> <li>・6月下旬までに、全小・中学校へ自校及び市の結果を配布し、各校で分析・考察並びに指導の改善に活用した。</li> <li>・学校訪問で各校の活用状況を把握し、指導・支援を行った。</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内全小・中学校において、児童生徒の学力及び生活や学習の状況の把握に役立っている。</li> <li>・結果をもとに自校の課題を明らかにし、児童生徒への指導の改善に役立っている。</li> <li>・学校訪問等を通して、学力実態調査の分析やその活用について助言している。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 拡充</li> <li>■ 継続</li> <li>■ 改善</li> <li>■ 完了</li> <li>■ 休止</li> </ul>

所管課：総合教育センター

取組	No.9	各種研修の実施			
取組概要	教員の授業力・指導力向上のための講座や、教育の情報化、特別支援教育に対する講座など、教職員の資質向上、市の教育課題や今日的な課題に対応するための各種研修を実施します。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職務・準職務研修講座 16講座</li> <li>・選択研修講座 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力・指導力アップ講座 9講座</li> <li>・経営力・教師力アップ講座 3講座</li> <li>・教科等研究活用講座 2講座</li> </ul> </li> <li>・特別研修講座 10講座 15回</li> <li>・市民教育公開講座 5講座 10回</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度から講座内容を吟味し精選して実施できた。</li> <li>・受講者数は、2,678人(平成26年度 3,149人)</li> <li>・受講者アンケートでは、9割が「研修が自分の課題解決となった」と回答している。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 拡充</li> <li>■ 継続</li> <li>■ 改善</li> <li>■ 完了</li> <li>■ 休止</li> </ul>

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 2 義務教育の充実
施策の分類	① 教育内容・指導の充実

所管課：教育指導課

取組	No.10	いじめの問題に対する取組			
取組概要	いじめ問題に児童生徒が主体的に取り組めるよう、小学校対象の「いじめ問題等に関する対話集会」と中学生対象の「生徒会交歓会」を行い、自らいじめ等の問題について話し合い、いじめ等の未然防止のためにどのような活動をすればよいかを考えることで、思いやりあふれる児童生徒の育成を図ります。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内全小学校から代表児童が各校2名参加し、8月に「いじめ問題等に関する対話集会」を開催し、いじめ根絶宣言の唱和、児童による話し合いを行った。</li> <li>各小学校では参加した児童が中心となり、いじめ防止に向け「いじめしま宣言」などの様々な取組を展開した。</li> <li>中学校では、生徒会交歓会開会行事において、市内全生徒会役員により「いじめ根絶宣言」の唱和を行った。</li> <li>市内全中学校から生徒会役員が一同に集まり、各校のいじめ問題への取組について意見交換を行った。</li> <li>各校で生徒会役員が中心となり「いじめ根絶宣言」の唱和を行った。</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いじめ問題等に関する対話集会」では、市内全小学校から代表90人が集まり、同じテーマで分科会、全体会が行われ、活発な意見が出され有意義な集会であった。</li> <li>生徒会交歓会分科会では、「いじめ問題を解決するために必要な執行部の活動とは」と題し意見交換がなされ、有意義な話し合いがなされた。</li> <li>「いじめ根絶宣言」を市内各中学校で唱和し、小学校では、「いじめしま宣言」等の取組も展開している。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 拡充</li> <li>■ 継続</li> <li>■ 改善</li> <li>■ 完了</li> <li>■ 休止</li> </ul>

所管課：教育指導課

取組	No.11	学校飼育動物ネットワーク支援事業			
取組概要	常に健康な小動物との触れ合いを通して、児童に豊かな心(思いやりの心、生物愛護・生命尊重の態度等)を育むために、学校飼育動物の飼育管理等について、地域の獣医師(八戸市学校獣医師)と連携したネットワークの構築を図ります。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度実施校数・・・44校(市内全小学校)</li> <li>各校において、ふれあい指導と適正飼育管理指導を実施</li> <li>平成13年度から事業実施</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	◎		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内全小学校において事業実施。</li> <li>各校及び学校獣医師から提出された報告書や感想等から、児童に生物愛護の態度等や「命」を大切にしようとする心が育まれていることがうかがえる。</li> <li>各校の動物飼育環境が衛生的に保たれている。</li> <li>獣医師会との協力により室内での小動物の飼育(モルモット)についての実践校が3校に増えた。(平成26年度1校)</li> <li>担当者からの報告では、人と人のつながりが強くなるなど、人間関係づくりにも効果がうかがえる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 拡充</li> <li>■ 継続</li> <li>■ 改善</li> <li>■ 完了</li> <li>■ 休止</li> </ul>

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 2 義務教育の充実
施策の分類	① 教育内容・指導の充実

所管課：教育指導課

取組	No.12	いのちを育む教育アドバイザー事業			
取組概要	生徒が自己の性に対する認識をより確かなものにするための性に関する専門的な指導を行い、性に関わる諸問題に対して適切に判断し対処できる資質や能力の育成を支援します。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度実施校数・・・24校(市内全中学校)</li> <li>各校において、性に関する講演会を実施</li> <li>3校において沐浴実習を実施</li> <li>平成14年度から事業実施</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	◎	◎	◎		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内全中学校において事業実施。</li> <li>各校及び各いのちを育む教育アドバイザーから提出された報告書や感想、市内共通項目によるアンケートから、生徒の性に対する正しい理解だけでなく、自他の性を尊重する態度や「命」を大切にする意識の高揚など、生徒の変容をより客観的に把握することができた。</li> <li>道徳などの教科との関連も図られた。</li> </ul>				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 2 義務教育の充実
施策の分類	③ 健康に関する指導の充実

所管課：学校教育課・教育指導課

取組	No.16	「新体力テスト」の結果の活用			
取組概要	平成11年度から文部科学省が導入した「新体力テスト」を実施することにより、児童生徒の体力・運動能力の実態を把握し、指導の計画・方法・形態等を見直し、運動能力の向上を図ります。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>全小・中学校の小学校6学年及び中学校3学年の新体力テストの結果を、文部科学省が示す基準に従って「A」から「E」の5段階で評定し、その割合を集計した。</li> <li>平成27年度の全小・中学校全学年の「新体力テスト」の結果を集計するとともに、学年ごとの平均値を「八戸市児童生徒の健康と体力」に掲載し周知した。</li> <li>各小・中学校において新体力テストの結果を活用した体育、保健体育の授業を実施した。</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>新体力テストで、総合評価「C」以上の児童生徒の割合は81.4%であった。(前年度81.7%)</li> <li>「新体力テスト」の結果を活用し、児童生徒に自分の体力を理解させるとともに、授業において各種運動に取り組んでいる。</li> <li>各学校において、市内平均値をもとに課題を明らかにするとともに、課題解決のために、教育課程の編成や授業の改善に生かすなど各学校での取組の充実が図られた。</li> </ul>				<p>■ 拡充 継続 改善 完了 休止</p>

所管課：学校教育課

取組	No.17	栄養教諭・学校栄養職員の活用			
取組概要	学校における食育の推進に中核的な役割を担う栄養教諭や、学校給食の栄養に関する専門的事項をつかさどる学校栄養職員を活用した食に関する指導の充実を図ります。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>各小・中学校に対して栄養教諭・学校栄養職員を活用した授業の実施を依頼した。</li> <li>授業は、各小・中学校の希望に添えるよう、栄養教諭・学校栄養職員の日程を調整した。</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	◎	◎	◎		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養教諭・学校栄養職員を活用した授業を行った学校数が70校中48校(68.5%)から68校中49校(72.0%)に増加した。</li> <li>学校保健委員会の講師として活用し、児童生徒のみならず保護者や地域に対して啓発を図る学校が増えた。</li> <li>「スポーツと食事」「食事のマナー」「お弁当のおかず」など実生活と密接に関連する内容の学習が展開され、食に関する指導の充実が図られた。</li> </ul>				<p>■ 拡充 継続 改善 完了 休止</p>

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 2 義務教育の充実
施策の分類	④ 教育環境の整備・充実

所管課：教育指導課・総合教育センター

取組	No.19	学校図書館を活用した教育の充実			
取組概要	児童生徒の読書活動を充実させるため、各小・中学校の蔵書数の増加を図るとともに、学校図書館ネットワークを活用して、データベース化した蔵書を学校間等で相互貸借するなど、図書資料の有効活用に努めます。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館用図書購入費の執行率 99.5%</li> <li>・小学校図書充足率 100% 中学校図書充足率 81.4%</li> <li>・各小・中学校及び総合教育センターの蔵書数 約535,000冊</li> <li>・ネットワークを利用した学校間の図書の貸借冊数 369冊</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全小・中学校に学校図書館用図書購入費を配分した。</li> <li>・学校訪問を通して各小・中学校の図書室の状況を把握し、学校図書館担当者会議等も活用して、学校図書館の有効な活用方法について指導・助言を行った。</li> <li>・今年度も、各学校の図書室にある蔵書のデータベース化を進め、図書ネットワークシステムで結んだ学校間の図書の相互貸借を図った。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 拡充</li> <li>■ 継続</li> <li>■ 改善</li> <li>■ 完了</li> <li>■ 休止</li> </ul>

所管課：学校教育課

取組	No.21	新学校給食センター建設事業			
取組概要	老朽化した西地区給食センターに代えて、衛生管理が行き届き、十分な調理機能を備えた給食センターを建設します。市内の児童生徒数及び既存給食センターの状況を踏まえ、10,000食/日程度の調理規模を目安とした施設とします。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度補正予算により、同年度交付金[後期工事分]の交付決定 (ただし、全額平成28年度予算へ繰り越し。)</li> <li>・前期工事[平成26年度からの繰越分]の完了</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省「学校施設環境改善交付金」の申請分全額の交付決定を受けるとともに、前期工事を完了し、平成29年4月からの供用開始に向けて、後期工事を進めている。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 拡充</li> <li>■ 継続</li> <li>■ 改善</li> <li>■ 完了</li> <li>■ 休止</li> </ul>



方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 2 義務教育の充実
施策の分類	⑤ 国際理解教育の推進

所管課：教育指導課

取組	No.25	青少年派遣交流事業				
取組概要	青少年(中学生)を海外へ派遣し、訪問国の歴史、文化、教育等の視察や青少年との交流を行います。また、海外からの青少年交流団の受け入れ、諸外国の伝統・文化等に対する理解を深める教育を推進します。					
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米国(フェデラルウェイ)、ニューカレドニアへ派遣した。</li> <li>・ 訪問国の歴史、文化、教育等の視察や、学校訪問、ホームステイを通して青少年との交流を実施した。</li> <li>・ 市内各中学校より1人ずつ参加した。</li> <li>・ 蘭州より青少年友好交流団が八戸市を訪問し、学校訪問や市内見学を行った。</li> <li>・ 市内23家庭に29名の蘭州市の中学生がホームステイした。</li> </ul>					
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	◎	◎	◎			
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予定どおり全てのプログラムを実施。</li> <li>・ 市内の全中学校から、米国(12名)ニューカレドニア(13名)合計25人が参加。</li> <li>・ 蘭州からの生徒のホームステイについて積極的に受け入れる家庭が多く、保護者の国際理解も進んでいる。</li> <li>・ 一般家庭へのホームステイを通じて、直に海外の生活、文化に触れることで、より国際理解が深まった。</li> <li>・ 全体の報告会や各学校の文化祭等で交流の様子や学んだことについて、プレゼンテーションソフトを使用するなど、工夫を凝らして発表した。</li> <li>・ ホームステイにより海外の生徒や家族との交流ができ、事前研修や報告会に向けての取組により派遣する生徒同士の交流も深められた。</li> </ul>				<p>■ 拡充 継続 改善 完了 休止</p>	

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 2 義務教育の充実
施策の分類	⑥ 情報教育の推進

所管課：総合教育センター

取組	No.28	教職員の ICT 活用指導力の育成			
取組概要	教員の ICT 活用指導能力の向上を図り、ICTを活用した確かな学力の育成と、教育活動の質の向上を目指します。				
実施状況	・学校訪問等で、校務や授業でのICT活用推進の支援を行った。				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	<p>・本市の「教職員のICT活用指導力の状況調査（平成26年度）」の結果 ※（ ）は前年度比</p> <p>①教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用できるのは81.9%（2.7%増加）、②授業中にICTを活用して指導できるのは74.3%（5.0%増加）、③児童生徒のICT活用を指導できるのは62.5%（2.0%増加）、④情報モラルなどを指導できるのは72.8%（3.5%増加）、⑤校務にICTを活用できるのは80.3%（4.0%増加）であった。調査5項目すべてにおいて着実に数値が上がっている。校務用コンピュータや実物投影機・プロジェクターなどの周辺機器が効果的に活用されていることが要因として考えられる。</p>				<p>■ 拡充 継続 改善 完了 休止</p>

所管課：総合教育センター

取組	No.29	情報モラル指導の充実			
取組概要	個人情報の保護・人権侵害・著作権等に対する対応、危険回避やネットワーク上のルール・マナーなど、情報社会で適正な活動を行うためのもとなる考え方と態度(情報モラル)の指導の充実を図ります。				
実施状況	<p>・情報モラル研修講座を開催した。</p> <p>・教科等研究委員（情報モラル）の実践を発表会及び情報モラル研修講座で発表した。</p> <p>・学校訪問等で、各教科等における情報モラル教育の指導の充実に向けた支援・指導を行った。</p>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	<p>・情報モラル研修講座の参加者数は54名。参加者の満足度は、「①理解しやすい内容であったか」「②自分の課題解決のきっかけになる内容であったか」「③今後の実践に役立つ内容であったか」のいずれも100%と極めて高かった。参加した先生方を通し、普段の授業において実践的な活用が期待される。</p>				<p>■ 拡充 継続 改善 完了 休止</p>

方向性	方向性 I 子どもの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育成します
目標	目標 3 高等学校教育・高等教育の充実
施策の分類	① 高等学校教育・高等教育の充実

所管課：学校教育課

取組	No.31	私立高等学校助成補助金				
取組概要	市内の私立高等学校・私立中高一貫校に対して、教材・教育備品の整備及び施設・設備の整備等に要する費用を助成し、高等学校教育の振興と充実を図ります。					
実施状況	・ 交付申請のあった6校に対し、2,989,100円を交付した。					
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	◎	◎	◎			
評価理由	・ 昭和46年度から市単独事業として実施しているものであり、教育環境の整備・充実が図られ、本市の私立高等学校・私立中高一貫校の教育の振興に役立っている。				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止	

Ⅱ－４－① 史跡・名勝・天然記念物などの保存・活用

方向性	方向性Ⅱ 八戸の個性豊かな文化と恵まれた自然に対する誇りと愛着をはぐくみます
目標	目標４ 文化財の保存と活用
施策の分類	① 史跡・名勝・天然記念物などの保存・活用

所管課：社会教育課・是川縄文館・博物館

取組	No.35	史跡等環境整備事業				
取組概要	史跡の公開・活用を図るため、市内にある長七谷地貝塚、是川石器時代遺跡、丹後平古墳群、根城跡の4史跡の環境整備に努めます。					
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長七谷地貝塚、丹後平古墳群、是川石器時代遺跡、根城跡の史跡内公有地の草刈等清掃を実施した。</li> <li>・「史跡根城跡保存管理計画」（昭和52年度策定、昭和56年度一部変更）の見直しを実施した。</li> <li>・「史跡是川石器時代遺跡保存活用計画」を策定した。</li> <li>・史跡根城跡の本丸板塀の改修工事を実施し、また工事現場を市民に公開した。</li> </ul>					
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	○	○	◎			
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各史跡の保護・景観維持が図られた。</li> <li>・史跡根城跡の保存管理計画について、文化庁の新たな策定指針を受けた見直し作業により中身の深化が図られた。</li> <li>・史跡是川石器時代遺跡の保存活用計画を策定し、適切な保存・活用を行なう準備が整った。</li> <li>・経年劣化に伴う根城跡の各復原施設の修繕を実施するとともに市民に広く公開し、公開活用のための環境が適切に維持された。</li> </ul>				<p>■ 拡充 継続 改善 完了 休止</p>	

所管課：博物館

取組	No.36	史跡根城の広場の活用事業				
取組概要	中世の城郭である史跡根城跡を紹介するとともに、復原・整備された史跡を活用して、「根城おもしろ講座」など各種事業の開催に努めます。					
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根城おもしろ講座10回開催（講演会3回 体験講座7回） 参加者 265人</li> <li>・特別企画「端午の節句～鎧を着よう」 参加者 305人</li> <li>・ものづくり体験工房40回開催 参加者 165人</li> <li>・史跡根城まつり 入場者 5,360人</li> <li>・史跡根城さくらまつり 入場者 1,253人</li> <li>・史跡根城えんぶり撮影会 入場者 371人</li> </ul>					
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	○	○	○			
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種事業を継続して実施し入場者数の増加に努めたが、入場者数は前年度と同水準（平成27年度18,273人 平成26年度17,901人）であった。</li> </ul>				<p>■ 拡充 継続 改善 完了 休止</p>	

方向性	方向性Ⅱ 八戸の個性豊かな文化と恵まれた自然に対する誇りと愛着をはぐくみます
目標	目標４ 文化財の保存と活用
施策の分類	① 史跡・名勝・天然記念物などの保存・活用

所管課：社会教育課

取組	No.37	名勝種差海岸の保護管理事業			
取組概要	名勝種差海岸を適切に保存管理するため、パトロールによる監視、増殖が問題となる植物の駆除、周知看板の設置などを行い、美しい景観の保護に努めます。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回パトロール延べ150回実施</li> <li>・ボランティアによる外来植物駆除延べ7回実施</li> <li>・車両進入禁止看板1基を再設置</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	・名勝種差海岸の適切な管理と景観の保護が図られた。				拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 改善 完了 休止

所管課：社会教育課

取組	No.38	天然記念物「蕪島ウミネコ繁殖地」保護事業			
取組概要	天然記念物「蕪島ウミネコ繁殖地」を適切に保存管理するため、ウミネコ飛来時期における保護監視に加え、草刈りと清掃作業による環境整備を行い、繁殖環境の保護に努めます。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・24時間体制の監視を4月1日から8月8日の期間実施</li> <li>・草刈り清掃を延べ9日実施</li> <li>・外来植物駆除を延べ3日実施</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	・例年どおりの営巣数約15,000箇所が確認され、天然記念物「蕪島ウミネコ繁殖地」の適切な保護が図られた。				拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 改善 完了 休止

Ⅱ－４－① 史跡・名勝・天然記念物などの保存・活用

方向性	方向性Ⅱ 八戸の個性豊かな文化と恵まれた自然に対する誇りと愛着をはぐくみます
目標	目標４ 文化財の保存と活用
施策の分類	① 史跡・名勝・天然記念物などの保存・活用

所管課：博物館

取組	No.39	浜小屋及び漁撈民俗資料の保存・広報事業			
取組概要	浜小屋及び漁撈民俗資料の保存管理をするために、地元保存会による浜小屋のいぶしや学芸員による資料点検などの管理保全に努めながら、さらに紹介リーフレットを作成し周知に努めます。 配付				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浜小屋いぶし</li> <li>・ 資料の点検</li> <li>・ 浜小屋紹介リーフレットの作成・配布</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収蔵資料の点検を実施し、現在の状態を把握できた。</li> <li>・ 児童、生徒にわかりやすい内容のリーフレットを作成、配布し周知に努めた。</li> </ul>				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止

方向性	方向性Ⅱ 八戸の個性豊かな文化と恵まれた自然に対する誇りと愛着をはぐくみます
目標	目標４ 文化財の保存と活用
施策の分類	② 埋蔵文化財の記録保存

所管課：是川縄文館

取組	No.40	八戸市内遺跡発掘調査事業				
取組概要	埋蔵文化財保護のため、遺跡分布・範囲確認調査を実施し、所在地を周知するとともに、円滑な記録保存と発掘調査の成果を公開する現地説明会の開催に努めます。					
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八幡遺跡・八戸城跡・田面木遺跡など48地点の発掘調査を実施した。</li> <li>・平成27年度遺跡調査報告会を実施した。(11月14日)</li> <li>・八幡遺跡、八戸城跡、田面木遺跡の現地説明会を実施し、調査現場の積極的公開に努めた。</li> </ul>					
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	○	◎	◎			
評価理由	現地説明会及び現地見学会参加者数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値（過去3年間の平均） 90人</li> <li>・実績 142人(157%)</li> </ul> 遺跡調査報告会参加者入場者数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標値（過去3年間の平均） 74人</li> <li>・実績 70人(94%)</li> </ul>				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止	

方向性	方向性Ⅱ 八戸の個性豊かな文化と恵まれた自然に対する誇りと愛着をはぐくみます
目標	目標４ 文化財の保存と活用
施策の分類	③ 民俗文化財の保存・継承

所管課：社会教育課

取組	No.42	「民俗芸能の夕べ」開催事業			
取組概要	伝統的な民俗芸能の活性化と市民への啓もうを図るため、市内の民俗芸能団体に発表の機会を提供するとともに、市民への公開を行っています。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第38回民俗芸能の夕べ」を開催</li> <li>・出演団体 9団体(うち4団体は三圏域郷土芸能交流祭として)</li> <li>・観客数 474人</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民俗芸能団体の活性化及び後継者育成に貢献。</li> <li>・市民の伝統芸能に対する理解が深まった。</li> </ul>				拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 改善 完了 休止

所管課：社会教育課

取組	No.43	郷土芸能ビデオライブラリー事業			
取組概要	地域に残る伝統芸能の保存と伝承のため、各団体の演舞や活動内容を撮影し、デジタル映像として記録保存します。また、過去に撮影・保管している古い映像等のデジタル化と編集を行い、貸し出し・公開等により市民へ還元します。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去に撮影した映像のデジタル化と編集 えんぶり19本</li> <li>・未撮影団体及び撮影済団体の現況撮影 芸能21団体・三社大祭・えんぶり計53回撮影</li> <li>・映像資料の貸し出し</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル保存化作業が計画どおり進んだ。</li> <li>・デジタル化により古い貴重なテープ映像を劣化から守るとともに、伝統芸能継承のための資料としての記録保存が図られた。</li> <li>・未撮影団体の撮影が進んだ。</li> </ul>				拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 改善 完了 休止



方向性	方向性Ⅱ 八戸の個性豊かな文化と恵まれた自然に対する誇りと愛着をはぐくみます
目標	目標４ 文化財の保存と活用
施策の分類	④ 有形文化財の保存・管理

所管課：社会教育課

取組	No.45	指定文化財管理事業				
取組概要	文化財をより良い形で後世に引き継ぐため、主に建造物などの有形文化財に対し、補修などに要する経費の一部を補助します。					
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>国重要有形文化財である「清水寺観音堂」の防災設備保守点検経費に補助金を交付した。</li> </ul> 平成27年度交付実績 19,000円					
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	○	○	○			
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災設備の機能維持により、建造物の恒久的な保存に貢献。</li> </ul>				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止	

方向性	方向性Ⅱ 八戸の個性豊かな文化と恵まれた自然に対する誇りと愛着をはぐくみます
目標	目標４ 文化財の保存と活用
施策の分類	⑤ 歴史記録の保存・活用

所管課：社会教育課

取組	No.46	先人周知事業			
取組概要	郷土の歴史と文化に対する市民の理解を深めるため、先人の功績をまとめたパネルを制作し、その公開に努めます。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>先人パネル5枚制作(先人名：岩泉正意、岩岡徳兵衛、小沼勉、夏堀悌二郎、松下満雄)</li> <li>パネル展1回開催</li> <li>八戸市ホームページによる一部公開 新規公開21名分</li> <li>外部への貸し出し 2件 (4名分)</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	先人の功績にふれる機会を創出したことにより、市民の郷土の歴史と文化に対する理解が深まることに貢献。				拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 改善 完了 休止

所管課：社会教育課

取組	No.47	史跡等標示事業			
取組概要	歴史的由緒のある地名・場所などを後世に伝えるため、その概要を記した標柱や説明板を設置し、市民に広く周知します。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「朔日町」の標柱を設置</li> <li>「風張（1）遺跡」の説明板を修繕</li> <li>既存施設の道路占用及び土地使用貸借契約期間の更新</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	郷土の歴史的背景を知るきっかけとなり、市民の文化財保護意識の高揚に貢献。				拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 改善 完了 休止

方向性	方向性Ⅱ 八戸の個性豊かな文化と恵まれた自然に対する誇りと愛着をはぐくみます
目標	目標４ 文化財の保存と活用
施策の分類	⑥ 歴史記録の保存・活用

所管課：是川縄文館・博物館

取組	No.50	研究紀要の発行			
取組概要	八戸市の埋蔵文化財を中心に、考古学・自然科学・保存科学等の諸分野から、年度毎に調査研究の成果を公表します。また、共同研究事業の年次成果をあわせて公表し、埋蔵文化財の保存と活用、普及啓発に役立っています。特定のテーマによる調査研究の成果の公表に努めます。				
実施状況	<是川縄文館> ・研究紀要第5号刊行（平成28年3月25日、モノクロ、30頁、300部） ・論文2報収録 <博物館> ・研究紀要第30号刊行（平成28年3月31日、モノクロ、31頁、300部） ・論文2報収録				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	◎	◎	◎		
評価理由	・第2期共同研究事業の年次活動報告及び総括論を公表することができた。 ・東北地方の異形台付土器について検討し、地域の縄文文化を理解する上で有用な研究成果を公表することができた。 ・「メドツが出るぞ」注意喚起看板、及び「島守家系譜」を調査し、研究紀要で広く公開し、郷土の文化の理解を深めるように努めた。				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止

所管課：是川縄文館・博物館

取組	No.51	収蔵資料の活用			
取組概要	是川縄文館・博物館及び南郷歴史民俗資料館の収蔵資料や写真を、他館の展示や学校、福祉施設等へ貸し出し、資料の活用に努めます。				
実施状況	・貸出等に迅速に対応するため、収蔵資料の再整理を実施した。 ・貸出件数 <是川縄文館> 194件 <博物館> 73件      <南郷歴史民俗資料館> 26件				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	◎	◎	◎		
評価理由	・収蔵資料の再整理により各種活用への迅速な対応が可能となった。 ・映像資料・実物資料の貸出により、資料の活用が図られた。 ・収蔵資料や写真を貸し出し、十分な活用ができた。				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止

方向性	方向性Ⅲ 大災害を乗り越えるための知識と心構えを養います
目標	目標5 被災者の支援と防災教育・防災体制の充実
施策の分類	① 児童生徒の就学支援と教育相談の充実

所管課：学校教育課

取組	No.52	市奨学金の返済猶予及び申請要件の緩和			
取組概要	災害時の特別の理由により、八戸市奨学金の返済が困難になった人が猶予申請した場合、返済を猶予します。また、一般奨学金の申請要件である家計基準について、災害等の特別の理由により家計が急変した人に対して要件を緩和します。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>奨学金の返済猶予について、随時、相談を受付。 (平成23年度に1件申請あり。平成24年度以降申請なし。)</li> <li>平成23年度に申請要件を緩和して奨学金の募集を行ったが、申請がなかったため、23年度以降は通常の要件で募集を行った。</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>奨学金の返済猶予申請の受付を随時行っているが、申請がなかったため実施していない。</li> <li>今後も引き続き申請の受付を随時実施、申請があり次第、対応する。</li> </ul>				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止

方向性	方向性Ⅲ 大災害を乗り越えるための知識と心構えを養います
目標	目標５ 被災者の支援と防災教育・防災体制の充実
施策の分類	② 教育施設の避難所機能の充実

所管課：教育総務課

取組	No.55	小・中学校における避難所機能の整備			
取組概要	指定避難所に指定されている小・中学校への蓄電機能付き太陽光発電設備の設置や体育館の高所照明器具等の落下防止対策など、非構造部材の耐震化を進め、避難所機能の強化を図ります。				
実施状況	○再生可能エネルギー導入推進事業 ・蓄電機能付き太陽光発電設備設置 5校 ・太陽光発電型LED街路灯設置 12校 ○体育館の照明器具等の落下防止対策工事 36校				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	・再生可能エネルギー導入推進事業については、計画どおり実施した。 ・落下防止対策工事については、計画どおり実施した。				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止

方向性	方向性IV 地域・社会ぐるみの子育てを支援します
目標	目標6 参加と連携の推進
施策の分類	① 学校・家庭・地域の連携の推進

所管課：教育指導課

取組	No.58	さわやか八戸グッジョブウィーク事業(再掲)			
取組概要	「地域の子どもは地域ではぐくむ」という視点で、学校・家庭・地域社会が連携し、中学校2年生を対象として、地域の事業所における3～5日間の職場体験活動を通して、望ましい勤労観及び職業観を育成します。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3～5日間の計画に基づき、中学2年生徒を対象とし、市内全中学校で実施した。</li> <li>・平成12年度より実施。</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内全中学校で実施し、キャリア教育の一環として取り組むことができた。</li> <li>・各学校の事後アンケート結果から、望ましい勤労観及び職業観とともに、自己有用感（自分は役立っているという気持ち）の高揚が見られた。</li> <li>・生徒の実態に応じて事前事後指導をさらに充実させていく必要がある。</li> <li>・地域、保護者との連携が深まっている。</li> <li>・地域密着型教育推進事業の組織との関連を図っていく必要がある。</li> </ul>				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止

方向性	方向性IV 地域・社会ぐるみの子育てを支援します
目標	目標6 参加と連携の推進
施策の分類	② 教育資源の多様な活用

所管課：社会教育課

取組	No.59	教育支援ボランティア推進事業			
取組概要	優れた知識や技能を有し、かつ、学校および地域の教育活動に携わるに相応しい熱意と見識を有する人材を登録する人材バンクを開設し、その人材を市内の小・中学校および社会教育施設など地域における教育活動に活用します。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校へ教育支援ボランティアを派遣 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教科指導補助 10件</li> <li>② 部クラブ指導活動 2件</li> <li>③ 特別支援 5件</li> <li>④ 環境整備(図書支援等) 4件 計 21件</li> </ul> </li> <li>・人材バンク登録者数 (H28.3.31現在) <ul style="list-style-type: none"> <li>個人 23人</li> <li>団体 5団体</li> </ul> </li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	◎	◎	○		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校が独自に探し出す地域のボランティアだけでは対応できないニーズに対応することができたが、学校が希望する分野とボランティア希望者が対応可能な分野が合致しないなどのケースも見られ、派遣件数は減少した。</li> <li>・今後も教育指導課の「地域密着型教育推進事業」との連携も推進していく。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 拡充</li> <li>■ 継続</li> <li>■ 改善</li> <li>■ 完了</li> <li>■ 休止</li> </ul>

方向性	方向性IV 地域・社会ぐるみの子育てを支援します
目標	目標7 社会教育・家庭教育の充実
施策の分類	① 社会教育施設等の整備・充実

所管課：社会教育課

取組	No.60	公民館の施設整備			
取組概要	小中野公民館の従来の生涯学習機能に加え、津波災害時の一時避難機能や地震災害時の防災拠点機能を併せもった施設として改築整備を行います。				
実施状況	・ 工程表に基づき工事を実施し、予定通り平成26年5月に工事を完了した。				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	△	○	—		
評価理由	・ 平成25年度には工事の遅れが発生したものの、当初の計画通り平成26年5月に施設が完成し6月30日に業務を再開することが出来た。				拡充 継続 改善 ■ 完了 休止

所管課：図書館

取組	No.62	図書館施設の整備			
取組概要	施設・設備の老朽化により、修繕の必要な箇所が増えており、計画的な改修等の実施により、市民に安全で快適な利用環境を提供します。				
実施状況	・ 屋内キュービクル及び高圧機器取替修繕、高圧ケーブル取替修繕、高圧気中開閉器取替修繕、送風機・排風機修繕等を実施した。				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	・ 利用者に安全で快適な環境の中で、読書や調査研究をしてもらうため、年次計画どおりに実施した。 ・ 利用者サービスに影響しないよう、主に休館日を利用して実施した。				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止



方向性	方向性IV 地域・社会ぐるみの子育てを支援します
目標	目標8 青少年の健全育成
施策の分類	① 青少年の健全育成活動の推進

所管課：教育指導課

取組	No.64	少年相談センター活動				
取組概要	青少年を非行から守るため、街頭指導、少年指導研修会、少年相談、社会環境調査のほか、広報紙「かがみ」の発行を行います。					
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街頭指導等を行った。</li> <li>・街頭指導259回、研修会2回、相談件数73件、社会環境調査随時、広報紙発行3回(各回24,500部)</li> </ul>					
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	○	○	○			
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画(目標)に基づいて街頭指導及び相談活動等を行い、青少年の健全育成に努めた。</li> <li>・指導員研修会では、施設訪問等を行い、指導員の見識を深めた。</li> <li>・他市町センターとの情報交換を行った。</li> <li>・電話相談や来所相談を通して、悩みや問題の解決につながったケースもある。</li> </ul>				拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 改善 完了 休止	

方向性	方向性IV 地域・社会ぐるみの子育てを支援します
目標	目標8 青少年の健全育成
施策の分類	② 青少年の交流の推進

所管課：教育指導課

取組	No.65	南部藩ゆかりの都市との交流事業			
取組概要	岩手県遠野市等との交流を通して、ふるさとを愛する心を育み、もって、児童の健全育成を図ります。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校6年生を対象に、岩手県遠野市及び紫波町への少年使節団派遣及び遠野市少年使節団の受け入れを行い、南部藩ゆかりの都市との交流を通じ、「ふるさと」を愛する心をはぐくみ、青少年の健全育成を図った。(今年度は29回目、児童累計1,278人)</li> <li>・ 派遣 八戸市立小学校6年生45人(各校1人)を遠野市と紫波町に派遣 遠野市児童26人、紫波町児童13人と交流</li> <li>・ 受入 遠野市立小学校6年生26人を八戸市に受け入れ</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	◎	◎	◎		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の感想文集「南部のぬくもり」を検証した結果、「八戸と遠野の深いつながりを知り、交流を続けられるとよいと思う」、「八戸のことを知り、誇りに思った」「八戸市の伝統を守る大人になりたい」等、心身の健全育成が図られた。</li> <li>・ 学校に戻ってからの派遣児童の生活や活動に交流の体験が活かされ、保護者・学校からは、「研修後の成長が認められる」との声が寄せられた。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 拡充</li> <li>■ 継続</li> <li>■ 改善</li> <li>■ 完了</li> <li>■ 休止</li> </ul>

所管課：教育指導課

取組	No.66	青少年派遣交流事業(再掲)			
取組概要	青少年(中学生)を海外へ派遣し、訪問国の歴史、文化、教育等の視察や青少年との交流を行います。また、海外からの青少年交流団を受入れ、諸外国の伝統・文化等に対する理解を深める教育を推進します。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米国(フェデラルウェイ)、ニューカレドニアへ派遣した。</li> <li>・ 訪問国の歴史、文化、教育等の視察や、学校訪問、ホームステイを通して青少年との交流を実施した。</li> <li>・ 市内各中学校より1人ずつ参加した。</li> <li>・ 蘭州より青少年友好交流団が八戸市を訪問し、学校訪問や市内見学を行った。</li> <li>・ 市内23家庭に29名の蘭州市の中学生がホームステイした。</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	◎	◎	◎		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予定どおり全てのプログラムを実施。</li> <li>・ 市内の全中学校から、米国(12名)ニューカレドニア(13名)合計25人が参加。</li> <li>・ 蘭州からの生徒のホームステイについて積極的に受け入れる家庭が多く、保護者の国際理解も進んでいる。</li> <li>・ 一般家庭へのホームステイを通じて、直に海外の生活、文化に触れることで、より国際理解が深まった。</li> <li>・ 全体の報告会や各学校の文化祭等で交流の様子や学んだことについて、プレゼンテーションソフトを使用するなど、工夫を凝らして発表した。</li> <li>・ ホームステイにより海外の生徒や家族と交流ができ、事前研修や報告会に向けての取組により派遣する生徒同士の交流も深められた。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 拡充</li> <li>■ 継続</li> <li>■ 改善</li> <li>■ 完了</li> <li>■ 休止</li> </ul>

方向性	方向性IV 地域・社会ぐるみの子育てを支援します
目標	目標8 青少年の健全育成
施策の分類	③ 青少年の地域活動の推進

所管課：教育指導課

取組	No.67	青少年の地域活動の推進事業				
取組概要	様々な体験活動を通じて地域社会の一員としての自覚を持ち、地域への関心を深めるよう努めるとともに、健全な仲間づくりを進めます。また、障がいのある児童生徒との交流を通してお互いの理解を深め、仲間意識を形成していくように努めます。					
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地区公民館、養護学校、各種イベントへ中高生ボランティアを派遣し活動</li> <li>平成27年度活動者延べ 1,722人（平成26年度 1,711人）</li> </ul>					
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	◎	○	○			
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標値 1,766人(過去3年の平均)、達成率 97.5%</li> <li>目標値は達成できなかったが、前年度と比較して活動者の延べ人数が微増した。</li> <li>感想文集には、「ボランティア活動に参加して学んだことを今後に生かしたい。」「また参加したい。」という声が多く上がっており、ボランティア活動の楽しさを学ぶとともに、積極性を養うことができた。</li> </ul>				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止	

方向性	方向性V あらゆる世代に多様な学習機会を提供します
目標	目標9 生涯学習の充実
施策の分類	① 多様な学習機会の提供

所管課：社会教育課

取組	No.69	放送大学支援事業			
取組概要	生涯学習振興のため、放送大学学園が当市に設置する放送大学八戸サテライトスペースの運営を支援しています。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八戸地域地場産業振興センター4階の八戸サテライトスペース賃借料の半額を負担した。</li> <li>・八戸サテライトスペースにおける補助職員2人を雇用した。</li> <li>・「広報はちのへ」に学生募集記事を掲載した。(年2回)</li> <li>・平成27年度(1・2期)入学者 276人(男 93人/女 183人) 18-19歳 5人/20-29歳 38人/30-39歳 64人/40-49歳 73人 /50-59歳 46人/60歳以上 50人</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内へのポスター掲示、チラシ設置、市民大学講座受講者へリーフレット配布などPR面でも協力した。</li> <li>・様々な年代の方が受講しており、幅広い世代に学習機会が提供されている。</li> </ul>				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止

所管課：社会教育課

取組	No.70	公民館講座の開催			
取組概要	市内各地区公民館において各種講座(公民館活動教室、青年学級、女性学級、高齢者教室、市民学校、家庭教育学級、移動公民館、市民IT講習会)を開催し、多様な生涯学習の機会を提供します。				
実施状況	・平成27年度 講座開催実績 講座回数：2,266回 学習時間：5,237時間 参加人数：44,193人				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の講座数や参加人数は減っているが、各館において土・日曜日や夜間の講座を開催するなど、公民館利用者の学習機会の拡充に努めた。</li> <li>・趣味の講座だけではなく、八戸の伝統芸能を習う講座や実生活に役立つ講座など、多様な講座の開催に努めた。</li> <li>・乳幼児を持つ母親、児童、青年、主婦、高齢者などを対象とした各種講座を実施しており、幅広い年代への多様な学習機会の提供に努めた。</li> </ul>				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止

方向性	方向性V あらゆる世代に多様な学習機会を提供します
目標	目標9 生涯学習の充実
施策の分類	① 多様な学習機会の提供

所管課：社会教育課・総合教育センター

取組	No.71	ICT 講習会の開催			
取組概要	各地区公民館において「市民 IT 講習会」、総合教育センターにおいて「市民パソコン教室」を開催し、市民がパソコンやインターネットの使い方について学習する機会を提供します。				
実施状況	<社会教育課> ・平成27年度 講座開催実績 講座回数：107回 学習時間：317時間 参加人数：947人 <総合教育センター> ・市民パソコン教室を3回実施した。(各回2日間・40人定員) 参加人数：61人				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	・パソコンの基礎から活用法まで、市民のニーズに合わせた講座を開催した。				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止

方向性	方向性V あらゆる世代に多様な学習機会を提供します
目標	目標9 生涯学習の充実
施策の分類	② 特色ある社会教育施設活動の充実

所管課：総合教育センター

取組	No.73	児童科学館各種体験活動			
取組概要	児童科学館にある設備や教育メディアを活用した体験活動の充実支援に努め、青少年の「科学する心」をはぐくみます。また、家庭の教育力の充実を図るために、視聴覚ライブラリーの映像利用や、講師を招いた学習会を開催します。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わくわくサイエンス、市民星空観望会等、13種類の体験教室を開催し、延べ日数223日、延べ参加人数30,788人だった。</li> <li>・視聴覚ライブラリー教材の貸出数は、16ミリ映画56件、ビデオ146件、DVD774件だった。</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	◎	◎	◎		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年度から指定管理者へ移行しており、参加募集に関して広くマスコミを活用するなどして、参加者の確保に努めた。また、三戸郡の町村と共同で教育メディア利用促進に努めたことにより、中学校の利用件数が増加した。</li> <li>・少年少女発明クラブや視聴覚教材を活用したお楽しみ劇場等、魅力ある体験教室づくりに向けて、体験活動の機会を豊富に提供して取り組んだ。</li> </ul>				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止

所管課：総合教育センター

取組	No.74	「青少年のための科学の祭典」			
取組概要	児童科学館事業及び「青少年のための科学の祭典」事業を通して、幼児児童生徒の「科学する心」の育成と保護者、市民への啓発を図ります。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・56のサイエンスショーや工作ブースを展開し、来場した子どもたちにも実験・体験する機会を提供した。</li> <li>・小中学校・高等学校の教員、大学職員、企業の方、市民団体の方々にブース展開を行い、協力した。</li> <li>・平成8年から実施、今年で20回目の実施。</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度の来場者は4,340人</li> <li>・協力した演示講師および中・高生のボランティア数は、延べ487人</li> <li>・事後アンケートでは、「とても楽しかった」という回答が57%（「とても楽しかった」と「楽しかった」を合わせると78%）</li> </ul>				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止

方向性	方向性V あらゆる世代に多様な学習機会を提供します
目標	目標9 生涯学習の充実
施策の分類	③ 特色ある社会教育施設活動の充実

所管課：図書館

取組	No.76	「調べる学習コンクール」の開催			
取組概要	子どもたちの調べる力向上の一助となるよう、また図書館の利用促進につながるよう、児童生徒を対象に、図書館の資料を使った調べる学習コンクールを開催します。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第5回八戸市図書館を使った調べる学習コンクール」作品募集 9月1日～9月27日</li> <li>・応募数52点(小学生51点、中学生1点)</li> <li>・審査結果 小学生：最優秀賞1点、優秀賞2点、優良賞2点、佳作4点 中学生：該当無し</li> <li>・表彰式 11月14日(土)10:00 教育長から表彰</li> <li>・全国コンクールへ小学生の表彰作品を2点推薦し、2点とも入賞した(優良賞1点、奨励賞1点)。</li> <li>・夏休みの期間内に26年度入賞作品(全国・市内)の複製を、また表彰式終了後に27年度の入賞作品(市内)の複製を、1階カウンター前で展示した。</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	◎	◎		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクール実施にあたり、「図書館を使った調べる学習講座」を1回、「夏休み調べる学習相談会」を3回開催し、図書館の資料をはじめ、様々な情報を活用することのおもしろさを実感してもらった。</li> <li>・応募数が前年に比べ2倍以上増え、調べる学習に取り組む児童が増えた。</li> </ul>				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止

所管課：図書館

取組	No.77	「市史講座」の開催			
取組概要	刊行された市史をもとに、主に市史の執筆者を講師として招き、八戸の歴史について講座を開設します。講座を通して、八戸の歴史に対する市民の興味・関心を高めます。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度市史講座(『通史編I 原始・古代・中世』)7回開催</li> <li>参加者数 延べ500人</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	◎	○	◎		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマによってばらつきはあったが、参加者が26年度平均50人から27年度は70人へと増加し、市民の興味・関心を高めることができた。</li> <li>・『新編八戸市史 通史編I 原始・古代・中世』発刊記念の講座として実施しており、販売部数が26年度の102冊から27年度は118冊に伸び、販売促進にもつながった。</li> </ul>				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止

方向性	方向性V あらゆる世代に多様な学習機会を提供します
目標	目標9 生涯学習の充実
施策の分類	② 特色ある社会教育施設活動の充実

所管課：博物館

取組	No.80	博物館資料の収集・公開			
取組概要	「新収蔵資料展」を開催し、新たな収集資料を公開し、また、保存管理に努めます。				
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新収蔵資料展」を開催し、平成26年度に収集した25件1,398点の資料の一部を紹介した。                  入館者数 計 2,986人                  内訳 小・中学生 562人／高校・大学生 21人／一般 951人／                  高齢者（市内65歳以上） 84人／その他 1,368人</li> <li>・新収蔵資料を整理し、適切に保存管理を行った。</li> </ul>				
評価	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	○	○	○		
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新収蔵資料展」を開催し、新たな収集資料を公開した。</li> <li>・新収蔵資料を整理し、適切な保存管理をしている。</li> </ul>				拡充 ■ 継続 改善 完了 休止



### Ⅲ 参考資料

#### 1 教育委員会の活動状況

(1) 委員選任状況（平成 28 年 3 月 31 日現在）

職名	氏名	任期	委員就任年月日
委員長	大庭 文武	平成 25 年 10 月 1 日～ 平成 29 年 9 月 30 日	平成 25 年 10 月 1 日
委員長職務代行者	武輪 節子	平成 24 年 10 月 1 日～ 平成 28 年 9 月 30 日	平成 24 年 6 月 6 日
委員	築瀬 眞知雄	平成 26 年 10 月 1 日～ 平成 30 年 9 月 30 日	平成 25 年 4 月 1 日
委員	油川 育子	平成 27 年 10 月 1 日～ 平成 31 年 9 月 30 日	平成 27 年 10 月 1 日
教育長	伊藤 博章	平成 25 年 4 月 1 日～ 平成 29 年 3 月 31 日	平成 25 年 4 月 1 日

(2) 会議の開催状況

会議は、毎月定例会を行い、急施を要する場合に臨時会を開催している。平成 27 年度は合計 66 件の議案を審議した。

定例会	12 回
臨時会	10 回

議案内容	
条例規則制定関係	27 件
人事関係（委員委嘱含む）	17 件
文化財指定関係	0 件
その他	22 件
合計	66 件

(3) その他の活動状況

教育委員会に関わる会議、研修会、式典に出席し、委員として活動した。

種別	主な内容	回数
会議	市立学校長会議、青森県市町村教育委員会連絡協議会定時総会等	9 回
研修会	市町村教育委員会委員研修会、定例研修会等	4 回
式典	各小・中・高等学校記念式典、卒業証書授与式、各種関係団体式典、成人式等	22 回
学校訪問	学校訪問	30 回
その他	教育委員会関連行事、各種視察等	23 回

このほか、教育行政の運営に関する基本方針や教育費予算等を協議案件として、適宜、会議を開催しており、事務局との意見交換や質疑応答、委員間での協議を行った。

さらに、各委員においては、各種団体との意見交換等に参加することとともに、随時、教育施設を訪問した。